

道路竣工データ製品仕様書（案）
【第1版】

平成21年9月

東京都北区まちづくり部工事課

目次

1. 概覧	1
1.1. 空間データ製品仕様書の作成情報	1
1.2. 目的	1
1.3. 空間範囲	2
1.4. 時間範囲	2
1.5. 引用規格	2
1.6. 用語と定義	2
2. 適用範囲	4
2.1. 適用範囲識別	4
2.2. 階層レベル	4
3. データ製品識別	4
3.1. 空間データ製品の名称	4
3.2. 日付	4
3.3. 問合せ先	4
4. データ内容及び構造	5
4.1. 応用スキーマ UML クラス図	5
道路竣工データ応用スキーマ	5
道路竣工データパッケージ	5
道路竣工データ応用スキーマクラス図	6
道路竣工データパッケージ	6
道路基本地物パッケージ	7
道路関連地物パッケージ	8
道路支持地物パッケージ	9
橋梁パッケージ	10
橋梁パッケージ/基本諸元サブパッケージ	11
橋梁パッケージ/取付道路サブパッケージ	12
橋梁パッケージ/上部工サブパッケージ	13
橋梁パッケージ/下部工サブパッケージ	14
道路区間パッケージ	15
道路施設維持管理履歴パッケージ	16
4.2. 応用スキーマ文書	17
道路竣工データパッケージ	17
道路竣工データ集合	17
道路竣工地物	17
道路地物	17
路線	18
道路基本地物パッケージ	19

道路基本地物.....	19
道路面地物.....	20
車道部.....	21
車道.....	22
側帯.....	24
路肩.....	26
踏切道.....	28
島.....	29
交通島.....	30
分離帯.....	31
歩道部.....	33
部分自歩道.....	34
歩道.....	36
歩道＋自転車道.....	38
自転車歩行者道.....	40
歩道等（分離）.....	42
独立専用自歩道.....	44
自転車専用道.....	45
自転車歩行者専用道.....	47
歩行者専用道.....	48
植栽.....	50
植樹帯.....	51
植樹ます.....	52
法敷.....	53
その他道路敷.....	55
地覆.....	57
道路地物_舗装.....	59
部分自歩道_橋梁部詳細.....	60
道路関連地物パッケージ.....	61
道路関連地物.....	61
立体横断施設.....	62
横断歩道橋.....	62
地下横断歩道.....	64
渡船施設.....	65
柵・壁.....	65
照明施設.....	67
排水施設.....	68
排水溝.....	69
側溝.....	70

道路支持地物パッケージ.....	71
道路支持地物.....	71
トンネル.....	72
トンネル_トンネル名.....	74
橋梁パッケージ.....	75
橋梁.....	75
橋梁_基本諸元.....	76
基本諸元_橋梁名.....	78
基本諸元_位置.....	78
基本諸元_橋台敷面積.....	79
基本諸元_桁下空間の制限値.....	79
基本諸元_標高.....	80
基本諸元_設計震度.....	80
基本諸元_付属物.....	81
基本諸元_交差物件.....	81
交差物件_道路.....	82
交差物件_河川.....	82
交差物件_鉄道.....	83
交差物件_その他.....	83
基本諸元_用地面積.....	84
基本諸元_年月.....	84
基本諸元_適用示方書.....	85
橋梁_取付道路.....	85
取付道路_延長.....	86
延長_諸元.....	86
橋梁_上部工.....	86
上部工_工事費.....	87
架設工事費_工法・工事費.....	87
上部工_防水工.....	88
上部工_上部死荷重.....	88
上部工_主要材料.....	88
上部工_径間.....	89
径間_構造形式.....	90
径間_たわみ.....	92
径間_斜角.....	92
径間_主構造.....	92
主構造_主桁.....	93
主構造_鋼材.....	93
主構造_コンクリート.....	94

主構造_PC鋼材.....	94
径間_横桁・縦桁.....	94
横桁・縦桁_諸元.....	95
径間_床版.....	95
径間_伸縮装置.....	96
伸縮装置_諸元.....	96
径間_支承.....	96
支承_諸元.....	96
橋梁_下部工.....	97
下部工_躯体.....	97
躯体_構造形式.....	98
躯体_柱(壁).....	98
躯体_コンクリート.....	99
躯体_鉄筋.....	99
下部工_基礎.....	99
基礎_設計水平震度.....	100
基礎_地盤.....	100
基礎_支持地盤.....	101
基礎_底版.....	101
基礎_杭.....	101
下部工_上部工反力.....	102
下部工_主要材料.....	102
下部工_耐震.....	103
耐震_落橋防止構造.....	103
道路区間パッケージ.....	104
区間.....	104
鉄道交差部.....	107
区間_所有者別面積.....	111
区間_交通量.....	112
鉄道交差部_交差部名.....	112
鉄道交差部_対道路幅員差.....	113
鉄道交差部_道路勾配.....	113
鉄道交差部_見通し距離.....	113
鉄道交差部_道路交差点距離.....	114
道路施設維持管理履歴パッケージ.....	114
道路施設維持管理履歴.....	114
補修改良履歴.....	115
補修改良履歴_補修改良箇所.....	116
塗装履歴.....	116

塗装履歴（橋梁上部工）	117
塗装履歴（道路施設）	118
塗装履歴（柵・壁）	119
塗装履歴_塗装面積内訳	120
道路施設_塗装面積内訳	121
柵・壁_塗装面積内訳	121
橋梁上部工_塗装面積内訳	122
塗装面積内訳_塗装種別	123
塗装面積内訳_塗装箇所	124
5. 参照系	126
5.1. 空間参照系	126
5.2. 時間参照系	126
6. データ品質	127
6.1. 品質評価方法の共通事項	127
6.2. 品質要求・評価手法	128
7. データ製品配布	130
7.1. 書式名称	130
7.2. 符号化仕様	130
7.3. 文字集合	130
7.4. 言語	130
7.5. 配布単位	130
8. メタデータ	131
8.1. メタデータの作成指示	131
8.2. メタデータの形式	131
8.3 記載項目	131
8.3 作成単位	131

1. 概覧

1.1. 空間データ製品仕様書の作成情報

- 題名：道路竣工データ製品仕様書（案）
- バージョン：第 1.0 版
- 初版日付：2009-09-30
- 作成者：東京都北区まちづくり部工事課
- 言語：日本語
- 分野：道路
- 文書書式：PDF

1.2. 目的

本製品仕様書は、道路の建設や維持補修における成果図書、および出来形を捉えた測量・観測成果に関する情報を明確にし、各種施設管理台帳や関連システムで利活用可能な情報を円滑に管理段階へ引継ぐことを目的とする。

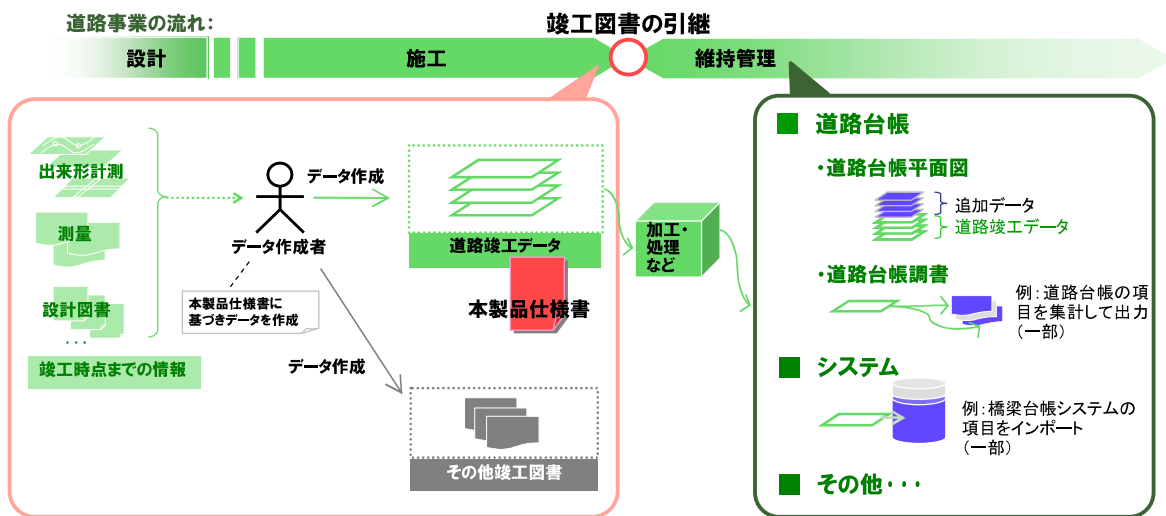


図 1 本製品仕様書の利活用に関するイメージ

1.3. 空間範囲

作成するデータの空間範囲は、特記仕様書に従うものとする。

1.4. 時間範囲

作成するデータの時間範囲は、特記仕様書に従うものとする。

1.5. 引用規格

- 地理情報標準プロファイル (JPGIS) Ver.2.1
- 日本版メタデータプロファイル (JMP) 第 2.0 版

参考資料：

- 東京都北区道路台帳データ仕様 平成 21 年 2 月
- 道路基盤地図情報製品仕様書 (案) 平成 20 年 8 月
- 空間データ製品仕様書 北区まちづくり部工事課 整備事業にかかる測量委託(道路台帳：DM 互換クラス図編) 製品仕様書適用範囲 (案) 2008 年 12 月
- 道路現況施設調査要項 国土交通省道路企画課

1.6. 用語と定義

インスタンス

クラスを実現するオブジェクト。

参考文献：地理情報標準プロファイル (JPGIS) Ver.2.1 附属書 5 (規定) 定義

応用スキーマ

1 つ又は複数の応用システムによって要求されるデータのための概念スキーマ。

参考文献：地理情報標準プロファイル (JPGIS) Ver.2.1 附属書 5 (規定) 定義

オブジェクト

状態と振る舞いをカプセル化した、矛盾なく定義される境界と識別子をもつ実体。

参考文献：地理情報標準プロファイル (JPGIS) Ver.2.1 附属書 5 (規定) 定義

クラス

同じ属性、操作、メソッド、関係及び意味を共有するオブジェクトの集合の記述。

参考文献：地理情報標準プロファイル (JPGIS) Ver.2.1 附属書 5 (規定) 定義

座標参照系

原子により地球に関連づけられた座標系。

参考文献：地理情報標準プロファイル（JPGIS）Ver.2.0 附属書 5（規定） 定義

製品仕様

論議領域の記述，及び論議領域をデータ集合へ写像するための仕様。

参考文献：地理情報標準プロファイル（JPGIS）Ver.2.1 附属書 3（規定） 品質 に記述された品質の要求，評価及び報告のための規則 Ver.1.0 3.定義

地物

現実世界の現象の抽象概念。

参考文献：地理情報標準プロファイル（JPGIS）Ver.2.1 附属書 5（規定） 定義

抽象クラス

直接インスタンスが生成できないクラス。

参考文献：UML Notation Guide(OMG-Unified Modeling Language,v1.4)

データ集合

他と識別可能な，データの集合。

参考文献：地理情報標準プロファイル（JPGIS）Ver.2.1 附属書 5（規定） 定義

パッケージ

要素をグループ化するための機構。

参考文献：UML Notation Guide(OMG-Unified Modeling Language,v1.4)

2. 適用範囲

2.1. 適用範囲識別

道路竣工データ製品仕様書（案）適用範囲

2.2. 階層レベル

データ集合

3. データ製品識別

3.1. 空間データ製品の名称

道路竣工データ製品仕様書（案）第1版

3.2. 日付

2009-09-30

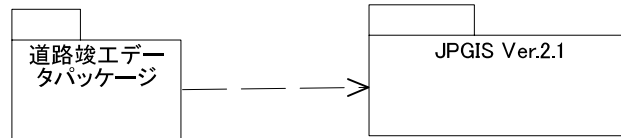
3.3. 問合せ先

東京都北区まちづくり部工事課

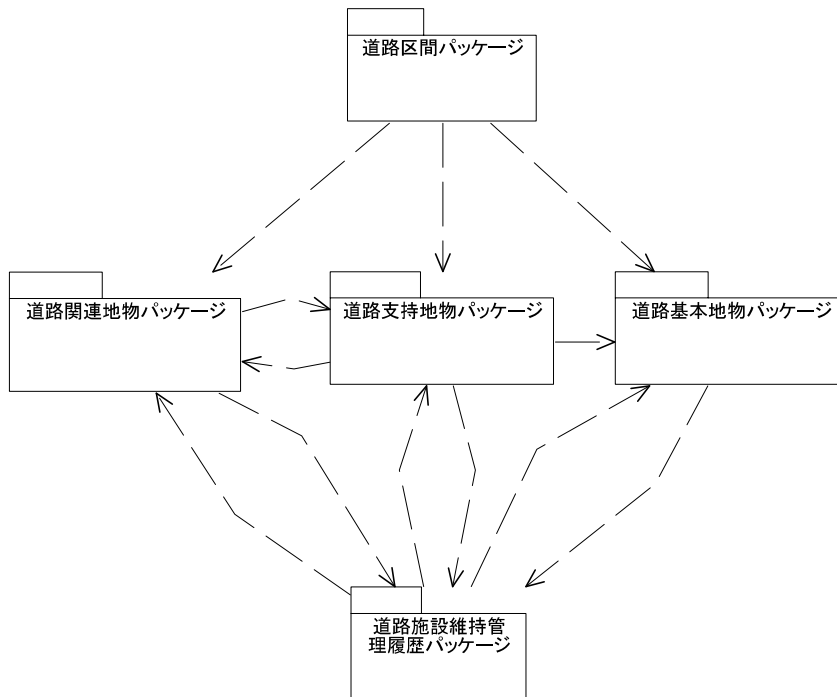
4. データ内容及び構造

4.1. 応用スキーマ UML クラス図

道路竣工データ応用スキーマ

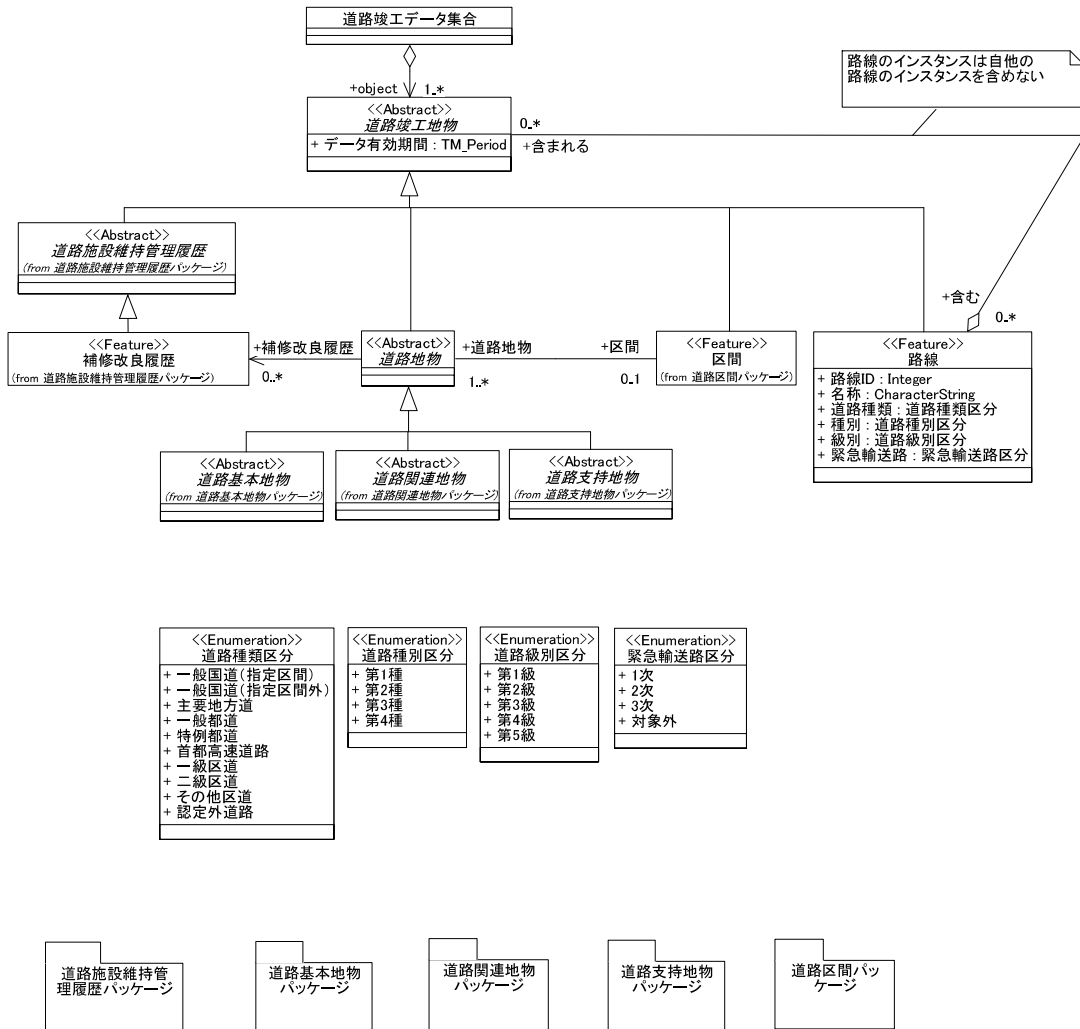


道路竣工データパッケージ

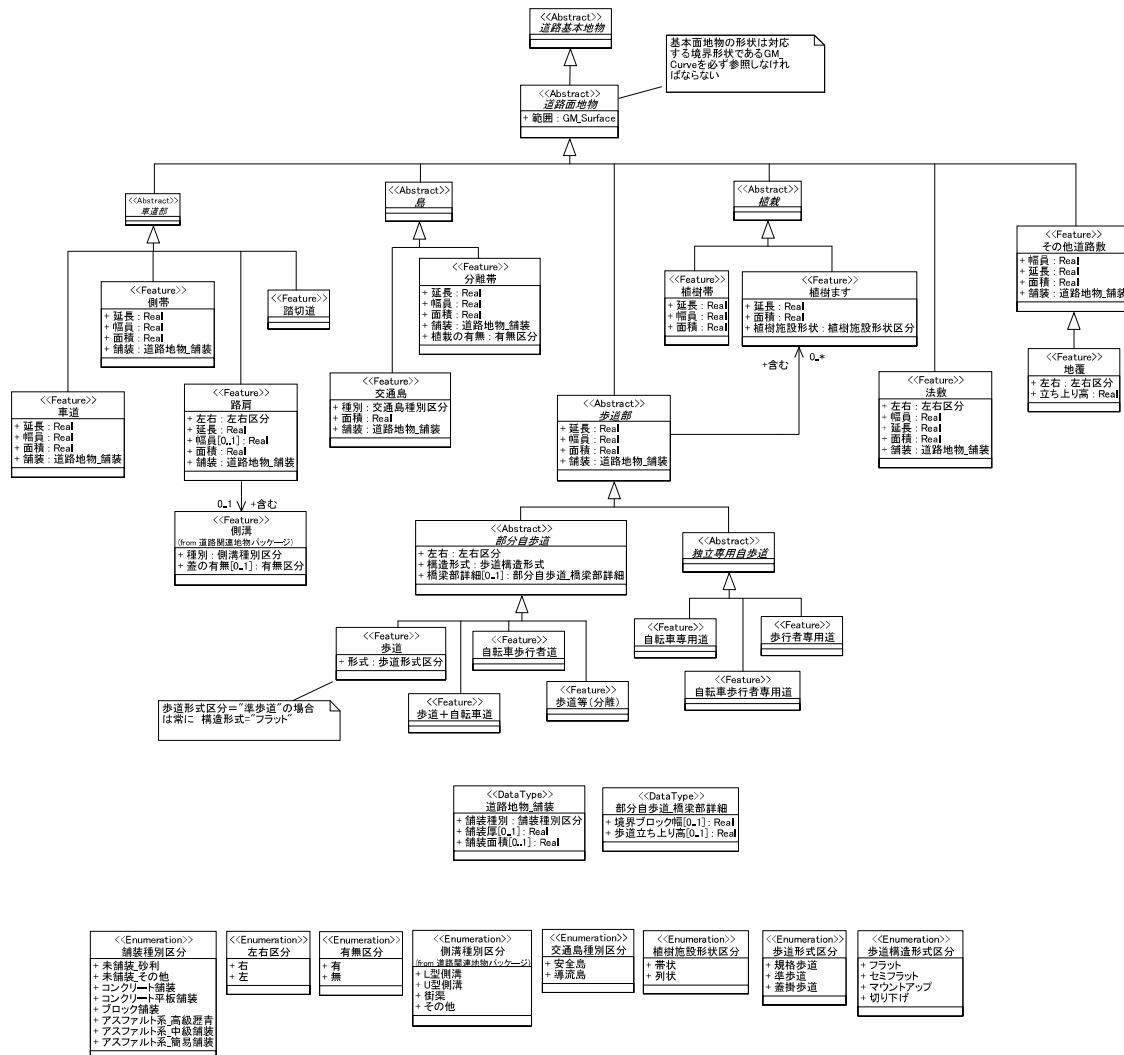


道路竣工データ応用スキーマクラス図

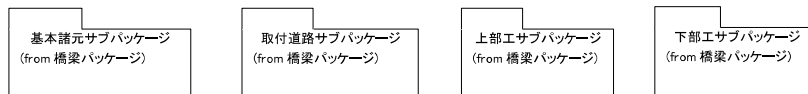
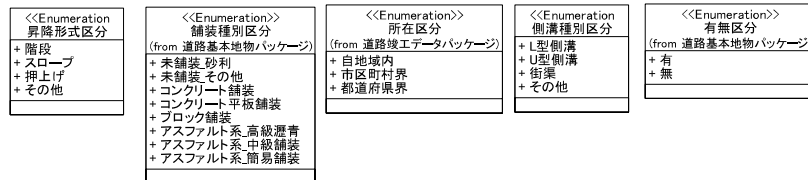
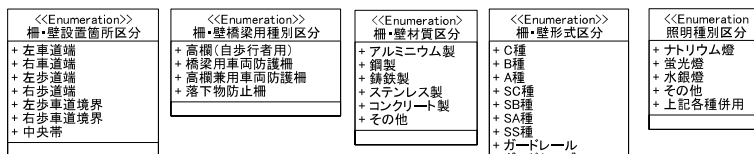
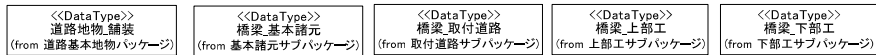
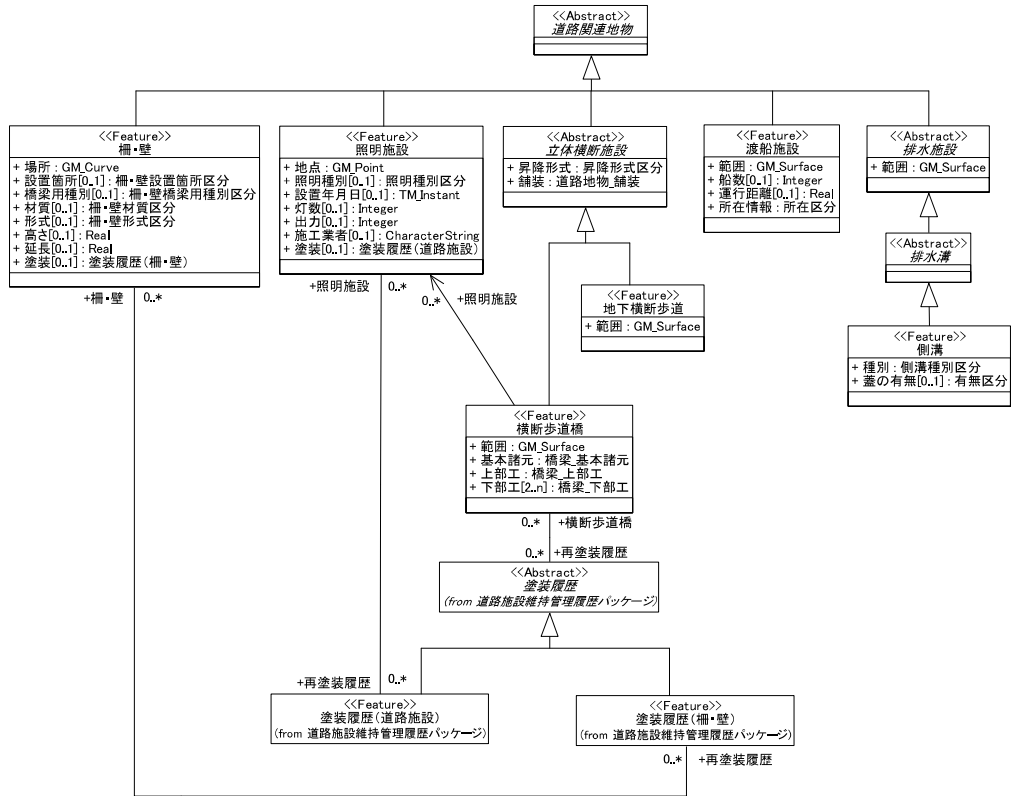
道路竣工データパッケージ



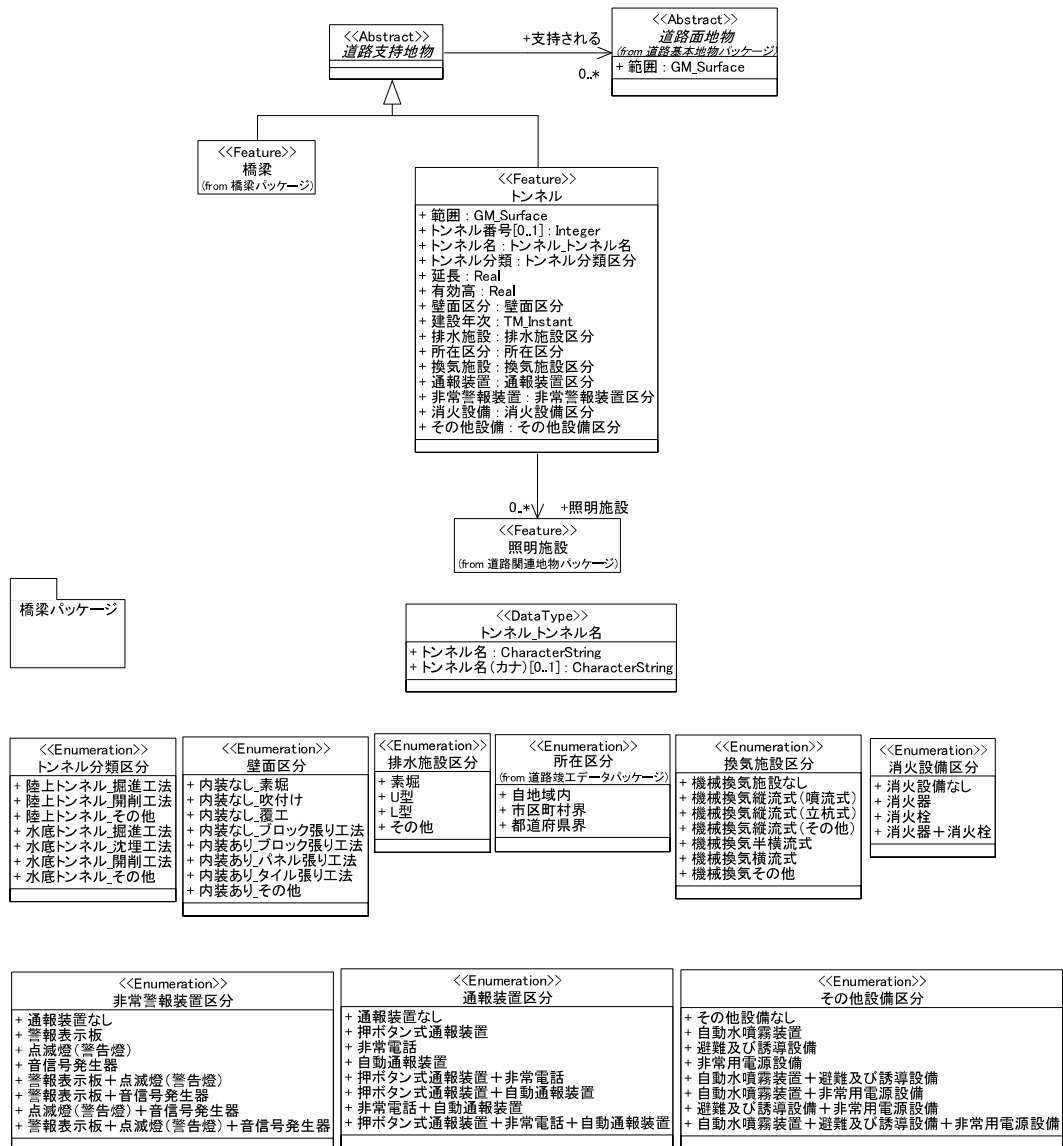
道路基本地物パッケージ



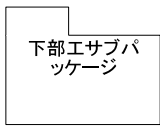
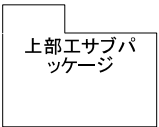
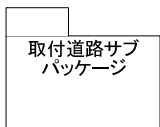
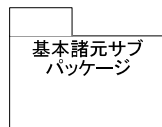
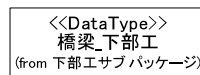
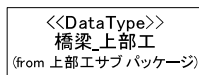
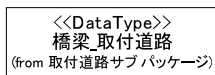
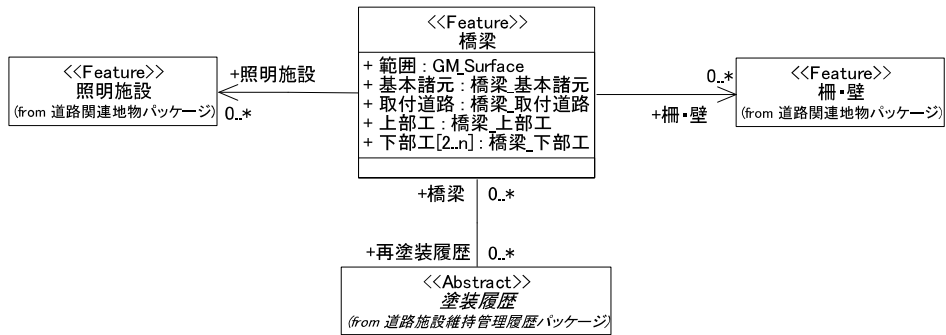
道路関連地物パッケージ



道路支持地物パッケージ



橋梁パッケージ



<<DataType>> 橋梁 基本諸元 + 橋梁名: 基本諸元 橋梁名 + 橋梁番号[0..1]: CharacterString + 位置: 基本諸元 位置 + 所在区分: 所在区分 + 橋格: 橋格区分 + 橋梁の種類: 橋梁種類区分 + 本線等区分: 本線等区分 + 重要度区分: 重要度区分 + 橋長: Real + 最大支間長: Real + 平面形状: 平面形状区分 + 路面位置: 路面位置区分 + 橋台敷面積[0..1]: 基本諸元 橋台敷面積 + 桁下空間の制限値[0..1]: 基本諸元 桁下空間の制限値 + 標高[0..1]: 基本諸元 標高 + 設計活荷重[0..1]: 設計活荷重区分 + 設計震度[0..1]: 基本諸元 設計震度 + 付属物[0..1]: 基本諸元 付属物 + 交差物件[0..n]: 基本諸元 交差物件 + 用地面積[0..n]: 基本諸元 用地面積 + 年月: 基本諸元 年月 + 適用示方書[0..1]: 基本諸元 適用示方書 + ポーリング資料[0..n]: CharacterString

<<DataType>> 基本諸元 橋梁名 + 橋梁名: CharacterString + 橋梁名(カナ)[0..1]: CharacterString	<<DataType>> 基本諸元 位置 + 起点: 基本諸元 位置区分 + 終点: 基本諸元 位置区分	<<DataType>> 基本諸元 橋台敷面積 + 右岸上流面積: Real + 右岸下流面積: Real + 左岸上流面積: Real + 左岸下流面積: Real	<<DataType>> 基本諸元 桁下空間の制限値 + 桁下端高の制限値: Real + 桁下空間高の制限値: Real + 桁下空間幅の制限値: Real	<<DataType>> 基本諸元 標高 + 中央桁下端高: Real + 最低桁下端高: Real + 最低河床高: Real + 橋下路面高: Real	<<DataType>> 基本諸元 設計震度 + 設計水平震度: Real + 設計鉛直震度: Real
--	---	--	---	---	---

<<DataType>> 基本諸元 付属物 + 橋名板有無[0..1]: 有無区分 + 橋腰板有無[0..1]: 有無区分 + 路拱板有無[0..1]: 有無区分 + 点検施設有無[0..1]: 有無区分 + 検査路有無[0..1]: 有無区分 + 遮音壁有無[0..1]: 有無区分 + 排水施設形式[0..1]: 排水施設形式区分	<<DataType>> 基本諸元 交差物件 + 交差物件の名称: CharacterString + 管理者: CharacterString + 面角平行: 面角平行区分 + 第三者被害可能性の有無[0..1]: 有無区分 + 道路[0..1]: 交差物件 道路 + 河川[0..1]: 交差物件 河川 + 鉄道[0..1]: 交差物件 鉄道 + その他[0..1]: 交差物件 その他	<<DataType>> 基本諸元 用地面積 + 水路[0..1]: Real + 河川[0..1]: Real + 鉄道[0..1]: Real + その他[0..1]: Real	<<DataType>> 基本諸元 年月 + 着工年月: TM_Instant + 完成年月: TM_Instant + 供用年月[0..1]: TM_Instant	<<DataType>> 基本諸元 適用示方書 + 適用示方書: 適用示方書区分 + その他示方書等[0..n]: CharacterString
---	--	--	---	--

<<DataType>> 交差物件 河川 + 分類: 河川分類区分 + 河川改修計画策定年次[0..1]: TM_Instant + 河川改修計画種類[0..1]: CharacterString + 河川改修計画当効実施年次[0..1]: TM_Instant + 架橋地点付近河川改修予定年次[0..1]: TM_Instant + 河川改修計画内容[0..1]: CharacterString + 計画流量[0..1]: Real + 河川流量[0..1]: Real + HWL[0..1]: Real + HWL確率年[0..1]: Real	<<DataType>> 交差物件 鉄道 + 分類: 鉄道分類区分	<<DataType>> 交差物件 その他 + 分類: その他交差物件区分	<<DataType>> 交差物件 道路 + 分類: 道路種類区分
--	---	---	---

<<Enumeration>> 所在区分 (from 道路線工データパッケージ) + 自地域内 + 市区町村界 + 都道府県界	<<Enumeration>> 橋格区分 + 1等橋 + 2等橋 + その他 + 歩道橋	<<Enumeration>> 橋梁種類区分 + 橋 + 高架橋 + 栈道橋	<<Enumeration>> 本線等区分 + 本線橋 + 副道橋 + サブ橋 + 歩道橋	<<Enumeration>> 重要度区分 + A種 + B種 + その他	<<Enumeration>> 平面形状区分 + 直線橋 + 曲線橋	<<Enumeration>> 路面位置区分 + 上路式 + 中路式 + 下路式 + 二層式 + その他	<<Enumeration>> 設計活荷重区分 + 6t + 7t + 8t + 9t + 12t + 13t + TL-14 + TL-20 + A活荷重 + B活荷重 + その他
--	---	--	--	---	---	--	---

<<Enumeration>> 位置区分 + 北区荒川右岸堤 + 北区東十条 + 北区王子 + 北区豊島 + 北区堀船 + 北区柴町 + 北区昭和田 + 北区東田端 + 北区田端 + 北区中里 + 北区上中里 + 北区南町 + 北区王子本町 + 北区滝野川 + 北区西ヶ原 + 北区十条南原 + 北区中十条 + 北区十条台 + 北区岩淵町 + 北区志茂 + 北区神谷 + 北区赤羽南 + 北区赤羽 + 北区浮間 + 北区赤羽北 + 北区赤羽台 + 北区柳ヶ丘 + 北区赤羽西 + 板橋区東坂下 + 足立区新田	<<Enumeration>> 有無区分 (from 道路基本地物パッケージ) + 有 + 無	<<Enumeration>> 排水施設形式区分 + たれ流し + 横引き + その他	<<Enumeration>> 面角平行区分 + 直角 + 平行	<<Enumeration>> 適用示方書区分 (from 橋梁パッケージ) + 適用示方書不明 + 大正15年道路構造に関する細則案 + 昭和14年鉄道橋設計示方書案 + 昭和31年鋼道橋設計示方書 + 昭和32年溶接鋼道橋設計示方書 + 昭和39年鋼道橋設計示方書(改訂) + 昭和39年鉄筋コンクリート道橋設計示方書 + 昭和43年道橋設計示方書 + 昭和47年道橋設計示方書 + 昭和53年道橋設計示方書 + 昭和55年道橋設計示方書 + 平成2年道橋設計示方書 + 平成6年道橋設計示方書 + 平成7年道橋設計示方書 + 平成8年道橋設計示方書 + 平成11年道橋設計示方書	<<Enumeration>> 河川分類区分 + 新河岸川本川 + 新河岸川支川 + 隅田川本川 + 隅田川支川 + 石神井本川 + 石神井支川
---	---	---	---	--	---

橋梁パッケージ／取付道路サブパッケージ

<<DataType>> 橋梁_取付道路
+ 面積 : Real + 延長[1..n] : 取付道路_延長 + 上部死荷重[0..1] : 上部工_上部死荷重 + 上部工主要材料[0..1] : 上部工_主要材料 + 下部工主要材料[0..1] : 下部工_主要材料

<<DataType>> 取付道路_延長
+ 径間番号 : Integer + 左岸 : 延長_諸元 + 右岸 : 延長_諸元

<<DataType>> 上部工_上部死荷重 (from 上部工サブパッケージ)
+ 重量 : Real + 面積あたり重量 : Real

<<DataType>> 上部工_主要材料 (from 上部工サブパッケージ)
+ 主鋼材[0..1] : Real + 鉄筋[0..1] : Real + PC鋼材[0..1] : Real + 高欄材[0..1] : Real + コンクリート[0..1] : Real + アスファルトコンクリート[0..1] : Real + 石材[0..1] : Real + 木材[0..1] : Real

<<DataType>> 下部工_主要材料 (from 下部工サブパッケージ)
+ 鋼杭[0..1] : Real + RC杭[0..1] : Integer + PC杭[0..1] : Integer + 鋼材[0..1] : Real + 鉄筋[0..1] : Real + コンクリート[0..1] : Real + 石材[0..1] : Real + 木材[0..1] : Real

<<DataType>> 延長_諸元
+ 全長 : Real + 陸橋部延長[0..1] : Real + 盛土部延長[0..1] : Real

橋梁パッケージ/下部工サブパッケージ

<<DataType>> 橋梁_下部工 + 下部工名称: CharacterString + 躯体: 下部工_躯体 + 基礎: 下部工_基礎 + 上部工反力[0..1]: 下部工_上部工反力 + 主要材料[0..1]: 下部工_主要材料 + 耐震[0..1]: 下部工_耐震
--

<<DataType>> 下部工_上部工反力 + 鉛直(常時): Real + 鉛直(地震時): Real + 水平(常時): Real + 水平(地震時): Real + 躯体自重: Real

<<DataType>> 下部工_主要材料 + 鋼桁[0..1]: Real + RC桁[0..1]: Integer + PC桁[0..1]: Integer + 鋼材[0..1]: Real + 鉄筋[0..1]: Real + コンクリート[0..1]: Real + 石材[0..1]: Real + 木材[0..1]: Real
--

<<DataType>> 下部工_耐震 + 落橋防止耐震性: 耐震性区分 + 下部工耐震性: 耐震性区分 + 落橋防止構造[0..n]: 耐震_落橋防止構造
--

<<DataType>> 耐震_落橋防止構造 + 起点側: 落橋防止構造区分 + 終点側[0..1]: 落橋防止構造区分

<<DataType>> 下部工_躯体 + 躯体構造形式: 躯体_構造形式 + 全高: Real + 柱(壁)[0..1]: 躯体_柱(壁) + コンクリート[0..1]: 躯体_コンクリート + 鉄筋[0..1]: 躯体_鉄筋 + 鋼重[0..1]: Real + 塗装[0..1]: 塗装履歴情報(道路施設)
--

<<Union>> 躯体_構造形式 + 橋台: 橋台構造形式区分 + 橋脚: 橋脚構造形式区分
--

<<DataType>> 躯体_柱(壁) + 幅: Real + 厚さ: Real + 断面形状: 柱(壁)断面形状区分
--

<<DataType>> 躯体_コンクリート + 設計基準強度: コンクリート設計基準強度区分 + 体積: Real

<<DataType>> 躯体_鉄筋 + 材質: 鉄筋材質区分 + 重量: Real

<<Feature>> 塗装履歴(道路施設) (from 道路施設維持管理履歴パッケージ) + 塗装面積内訳: 道路施設_塗装面積内訳
--

<<DataType>> 道路施設_塗装面積内訳 (from 道路支持地物パッケージ) + 塗装箇所[0..1]: 塗装面積内訳_塗装箇所 + 塗装種別[0..1]: 塗装面積内訳_塗装種別

<<DataType>> 塗装面積内訳_塗装種別 (from 道路施設維持管理履歴パッケージ) + 上塗り塗装[0..1]: 上・中塗り塗装種別区分 + 中塗り塗装[0..1]: 上・中塗り塗装種別区分 + 下塗り塗装[0..1]: 下塗り塗装種別区分 + その他塗装[0..1]: CharacterString

<<DataType>> 下部工_基礎 + 基礎構造形式: 基礎形式区分 + 設計K値[0..1]: Real + 設計水平震度[0..1]: 基礎_設計水平震度 + 液状化可能性[0..1]: 有無区分 + 地盤[0..1]: 基礎_地盤 + 支持地盤[0..1]: 基礎_支持地盤 + 底版[0..1]: 基礎_底版 + 杭[0..1]: 基礎_杭

<<DataType>> 基礎_設計水平震度 + 振動方向: Real + 橋軸直角方向: Real

<<DataType>> 基礎_地盤 + 土質区分: 地盤土質区分 + 種別: 地盤種別区分

<<DataType>> 基礎_支持地盤 + 種類: 支持地盤種類区分 + 深さ: Real

<<DataType>> 基礎_底版 + 幅(橋軸方向): Real + 幅(橋軸直角方向): Real + 厚さ: Real

<<DataType>> 基礎_杭 + 杭径: Real + 本数: Integer + 杭長(最大): Real + 杭長(最小): Real

<<Enumeration>> 耐震性区分 + 未対策 + 復旧仕様 + H8表示

<<Enumeration>> 落橋防止構造区分 + 無し + 管座並縁(SEの確保) + 桁と下部構造連結 + 桁・下部構造に突起設置 + 2連の桁を連結 + 管座並縁(余裕のあるSE確保、I.SSE等) + 移動制限装置(アンカーバー) + その他 + 不明

<<Enumeration>> 橋台構造形式区分 + 重力式橋台 + 半重力式橋台 + 逆T式橋台 + 控え壁式橋台 + ラーメン橋台 + 箱式橋台 + 中抜き橋台 + 盛りこぼし橋台 + その他橋台
--

<<Enumeration>> 橋脚構造形式区分 + RC柱式橋脚 + RC柱式橋脚 + RCラーメン橋脚 + RC T型橋脚 + RCハイルベント橋脚 + RC多柱式橋脚 + RCその他橋脚 + 鋼製柱式橋脚 + 鋼製ラーメン式橋脚 + 鋼製ハイルベント橋脚 + 鋼製その他橋脚 + その他橋脚

<<Enumeration>> 柱(壁)断面形状区分 + 矩形 + 円形 + 小判 + その他
--

<<Enumeration>> コンクリート設計基準強度区分 + 18 + 21 + 24 + 30 + その他
--

<<Enumeration>> 鉄筋材質区分 + SR235 (IBSR24) + SD295A (IBSD30) + SD295B + SD345 (IBSD35)
--

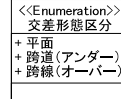
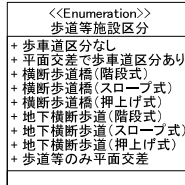
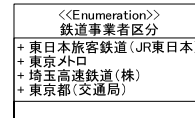
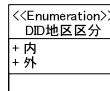
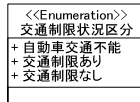
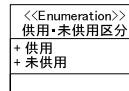
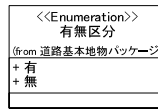
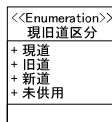
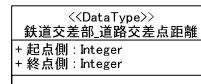
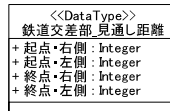
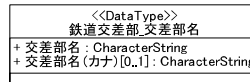
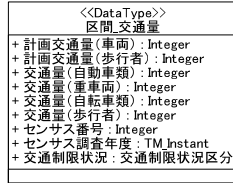
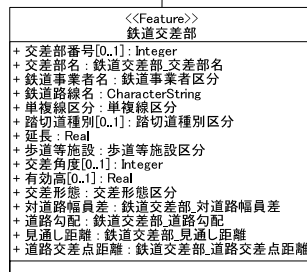
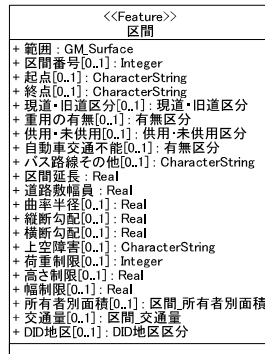
<<Enumeration>> 基礎形式区分 + 直接基礎 + 場所打ち杭 + 深礎杭 + 鋼管杭 + RC杭 + PC杭 + PHC杭 + 水杭 + その他杭基礎 + オープンケーソン + ニューマチックケーソン + 鋼管矢板井筒 + PCウエル + 地中連続壁 + その他 + 基礎形式不明
--

<<Enumeration>> 地盤土質区分 + 砂質土 + 粘性土 + 礫 + 岩盤 + 不明
--

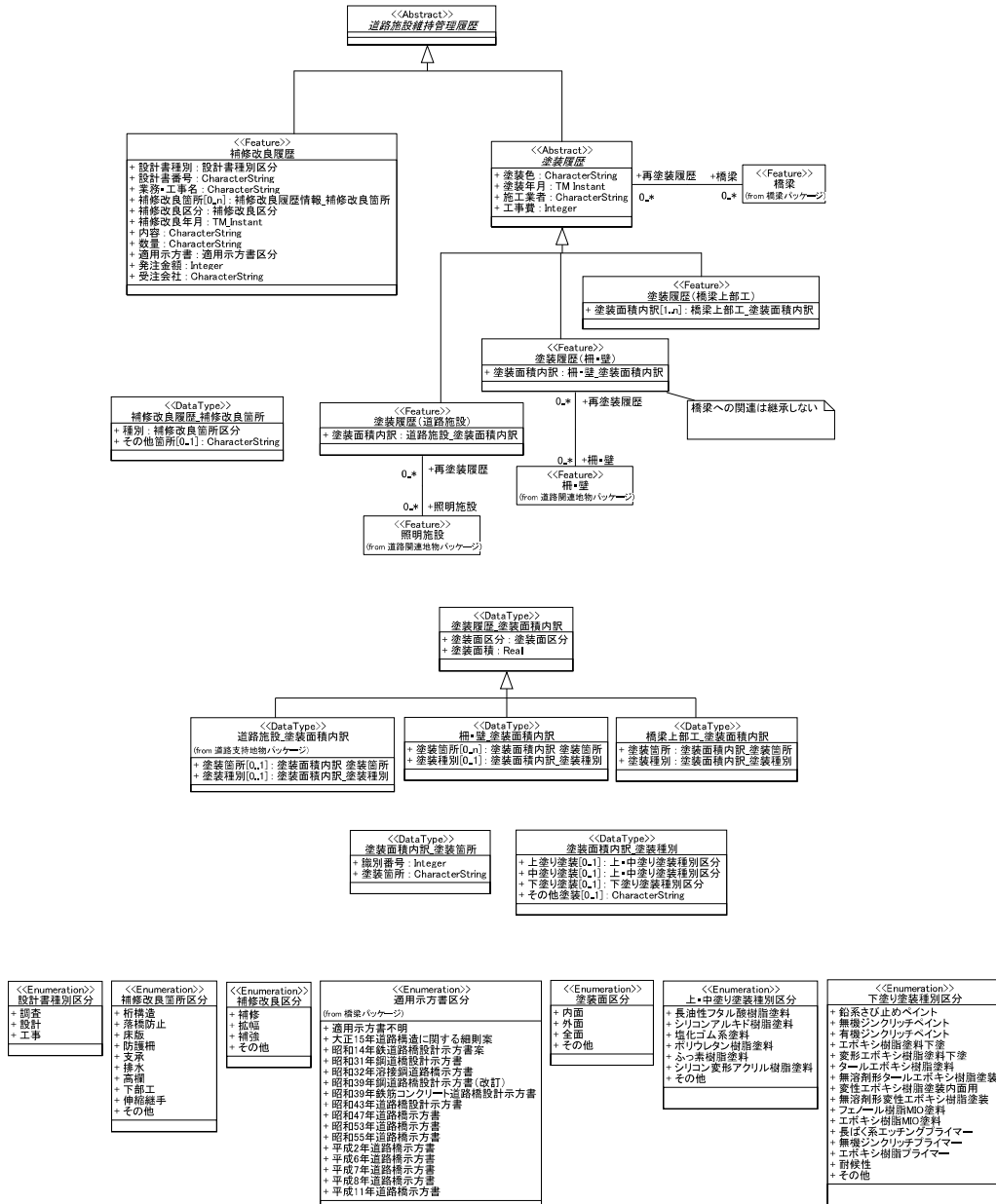
<<Enumeration>> 地盤種別区分 + I種 + II種 + III種 + 不明
--

<<Enumeration>> 支持地盤種類区分 + 種類I + 種類2 + その他
--

道路区間パッケージ



道路施設維持管理履歴パッケージ



4.2. 応用スキーマ文書

道路竣工データパッケージ

道路竣工データ集合

定義

道路竣工データ応用スキーマで定義される全てのデータのデータ集合

抽象/具象区分： 具象

関連役割

object[1..n] : 道路竣工地物

データ集合の要素である地物への関連（関連相手先 道路竣工地物の下位クラス）

道路竣工地物

定義

道路竣工データを構成する全ての地物の抽象クラス

抽象/具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

道路地物

定義

道路竣工データを構成する地物のうち、道路基本地物、道路関連地物、道路支持地物の抽象クラス。

上位クラス： 道路竣工地物

抽象／具象区分： 抽象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

路線

定義

道路管理者が指定・認定している道路網の単位であり、起点から終点までを結ぶ。該当路線を、構成要素となる地物を参照することで表現する。

上位クラス： 道路竣工地物

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

路線 ID：Integer

発注者が定める路線ごとに一意な一連の番号。

<取得基準>

発注者が提供する路線リスト表から取得する。

名称：CharacterString

路線 ID に対応する路線の名称。

道路種類 : CharacterString

道路法第3条で定められた道路網上に占める役割によって分類したもの。

<定義域>

一般国道（指定区間）、一般国道（指定区間外）、主要地方道、一般都道、特例都道、首都高速道路、一級区道、二級区道、その他区道、認定外区道

種別 : 道路種別区分

道路の区分で、道路の存する地域及び地形の状況によって分類したもの。

<定義域>

第1種、第2種、第3種、第4種

級別 : 道路級別区分

道路の区分で、道路の種類、道路の存する地域の地形、計画交通量によって分類したもの。

<定義域>

第1級、第2級、第3級、第4級、第5級

緊急輸送路 : 緊急輸送路区分

当該道路の緊急輸送路の指定状況。

<定義域>

1次、2次、3次、対象外

関連役割**含む[0..n] : 路線**

路線インスタンスの場合はこの関連の相手先を参照しない。(XML文書では、この関連のタグを記述しない)

含まれる[0..n] : 道路竣工地物

当該地物に含まれる地物インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::道路竣工地物）

道路基本地物パッケージ**道路基本地物****定義**

道路を構成する基本的な地物の抽象クラス。

上位クラス：道路地物

抽象/具象区分：抽象

属性**データ有効期間 : TM_Period**

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

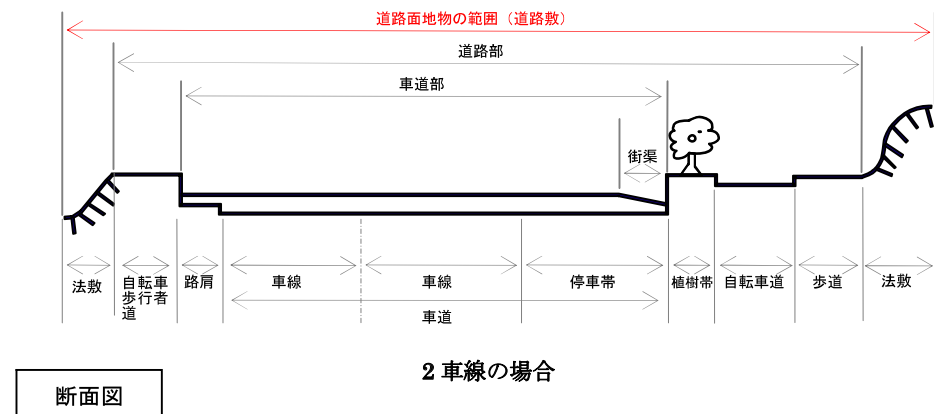
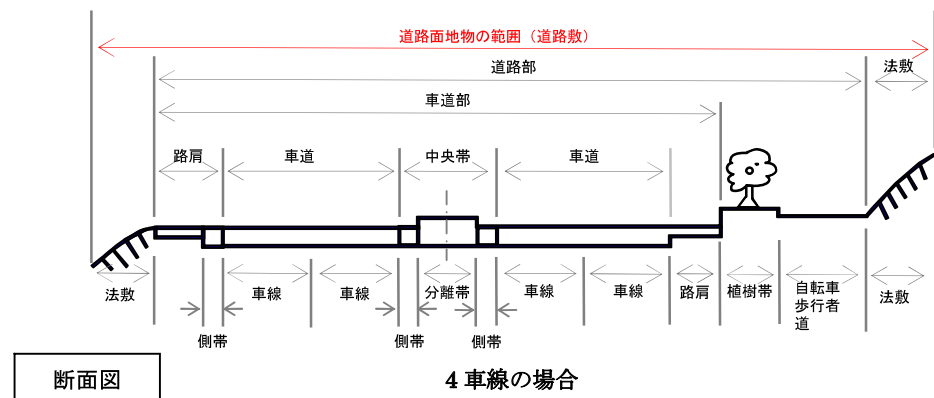
補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

道路面地物

定義

道路の表面を連続的に表現するために必要な地物の抽象クラス。



上位クラス： 道路基本地物

抽象／具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線によって構成される領域を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

車道部

定義

主として自動車を利用する道路の部分で、車線、すりつけ区間、分離帯が切断された車道の部分。路肩、側帯、停車帯、待避所、乗合自動車停車所、非常駐車帯、副道を含む。

上位クラス： 道路面地物

抽象/具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

地物の境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

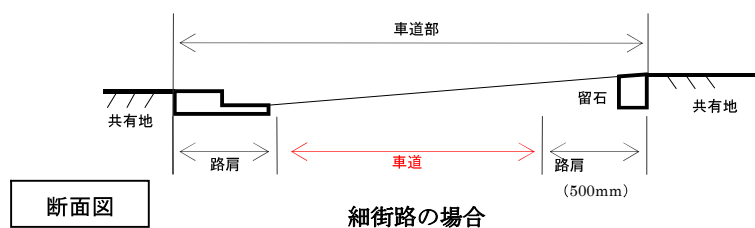
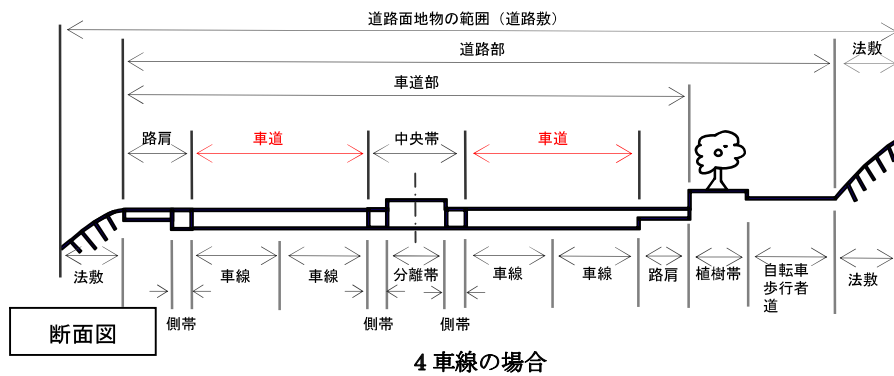
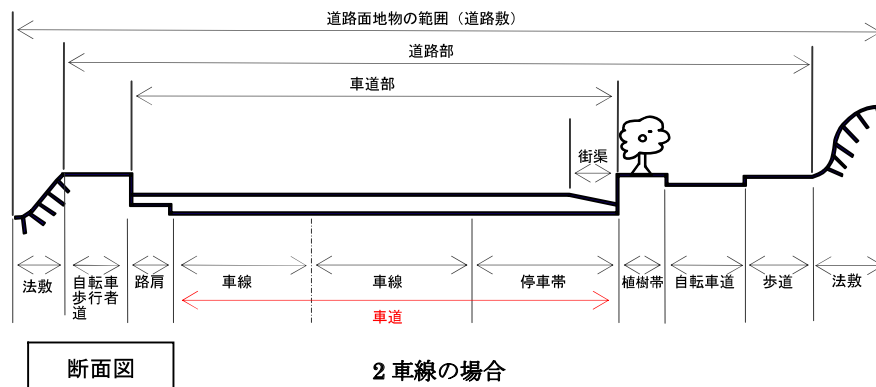
補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

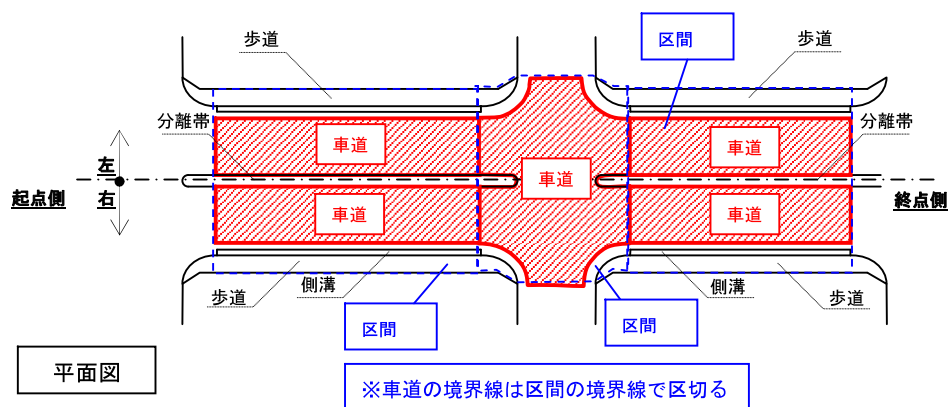
当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

車道

定義

主として自動車を利用する道路の部分で、車線、すりつけ区間、分離帯が切断された車道の部分、停車帯、待避所、乗合自動車停車所、非常駐車帯、副道を含む。





上位クラス： 車道部

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

車道外側線と他の道路面地物との境界線、及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

延長：Real

車道の延長。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

車道の幅員。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

車道の面積。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。（3桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は0.1mm以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別, 舗装厚, 舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装,
ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

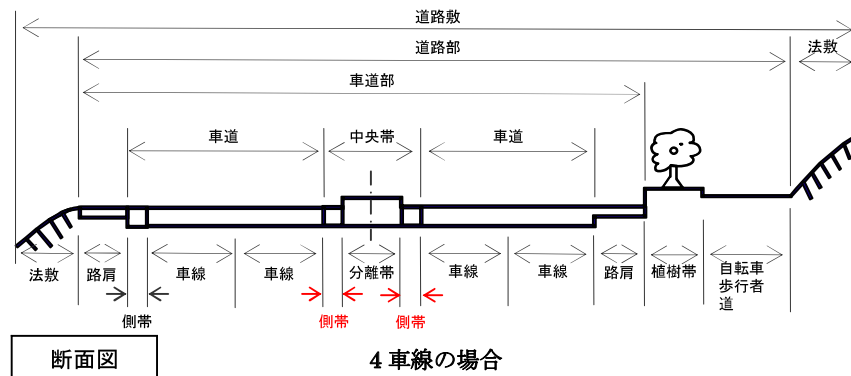
補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

側帯

定義

車両の運転者の視線を誘導し、側方余裕を確保する機能を持たせるため、車道に接続して設置される道路の帯状の部分。



上位クラス：車道部

抽象/具象区分：具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

側帯の外周及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

なお、側帯の車道側の境界線は車道外側線とする。また、中央帯に含まれるもののみ対象とする。

延長 : Real

側帯の延長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員 : Real

側帯の幅員。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積 : Real

側帯の面積。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。(3 桁以下は切り捨て)

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装 : 道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装,
ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割**含む[0..n] : 路線**

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

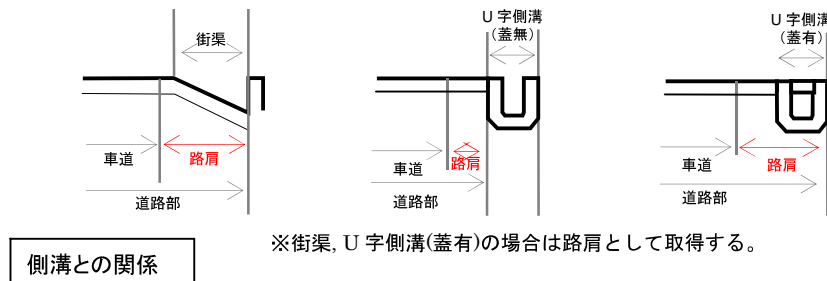
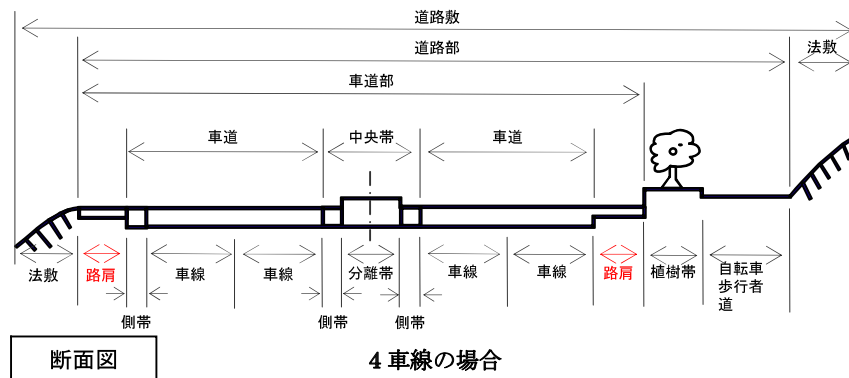
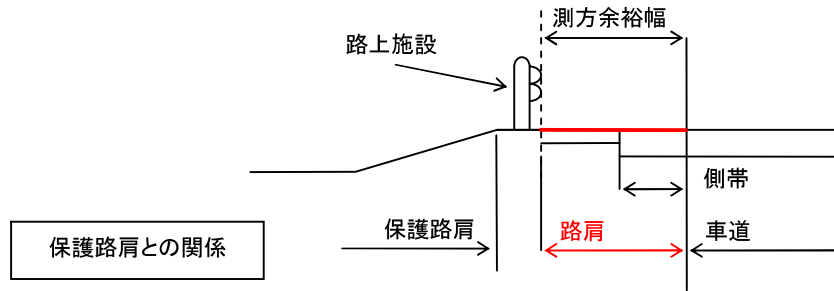
当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

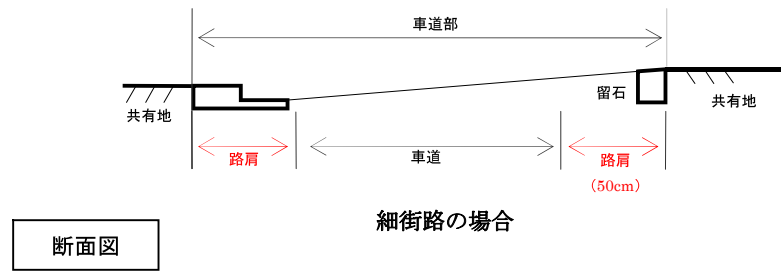
路肩

定義

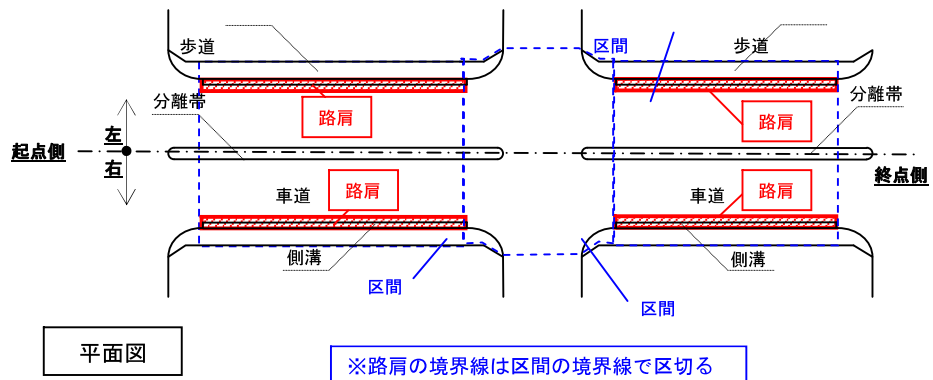
道路の主要構造部を保護し、又は車道の効用を保つために、車道、歩道、自転車道、自転車歩行者道に接続して設置される道路の帯状の部分。保護路肩を除く。

幅員の小さな細街路についても原則として路肩(標準：幅 50cm)を設定する。





細街路の場合



上位クラス： 車道部

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間： TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲： GM_Surface

<取得基準>

車道外側線、車道端及び区間の境界線で構成される領域のうち、側帯以外を路肩の空間属性として取得する。車道端は、隣接する地物がマウントアップしている場合は縁石等の上端線とし、同一平面上に存在する場合は、縁石等の下端線とする。

街渠やU字側溝の蓋がある部分については路肩に含めるが、U字側溝で蓋が無い部分については路肩に含めない。

左右： 左右区分

当該地物が起点側から見た場合に、道路中心線に対し左右どちらに属するかの区分。

<定義域>
左, 右

延長 : Real

路肩の延長。
単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>
道路中心線上の延長を取得する。

幅員[0..1] : Real

路肩の幅員。
単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>
道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。
橋梁上にある場合は必ず取得する。

<定義域>
最低値は 0.5m とする。

面積 : Real

路肩の面積。
単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。(3 桁以下は切り捨て)

<取得基準>
当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い, 座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装 : 道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別, 舗装厚, 舗装面積を入力する。

<定義域>
未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装,
ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

含む[0..1] : 側溝

路肩に含まれる側溝インスタンスへの関連。
側溝が U 型側溝で蓋無しの場合は参照しない。

踏切道

定義

鉄道と交差する道路の部分で, 道路と鉄道敷地の境界線によって構成される部分。

上位クラス： 車道部

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

踏切道の外周となる境界線によって構成される領域を取得する。

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

島

定義

車両の走行を制御し、安全な交通を確保するために設置される分離帯及び交通島の部分。ただし、路面電車停留所に該当する部分を除く。

上位クラス： 道路面地物

抽象／具象区分： 抽象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

島の外周となる境界線によって構成される領域を取得する。

関連役割**含む[0..n] : 路線**

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

交通島**定義**

車両の走行を制御し、歩行者を保護するために主として車線の間に設置される道路の島状の部分。

上位クラス : 島

抽象/具象区分 : 具象

属性**データ有効期間 : TM_Period**

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

交通島の外周及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。マウントアップしている場合は下端線を取得する。

なお、区間が設定できる場合は、上記の境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

種別 : 交通島種別区分

交通島の種別。

<定義域>

安全島, 導流島

面積 : Real

交通島の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は0.1mm以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

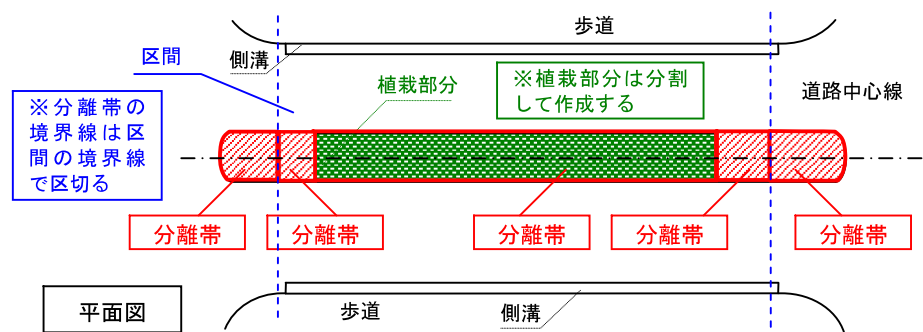
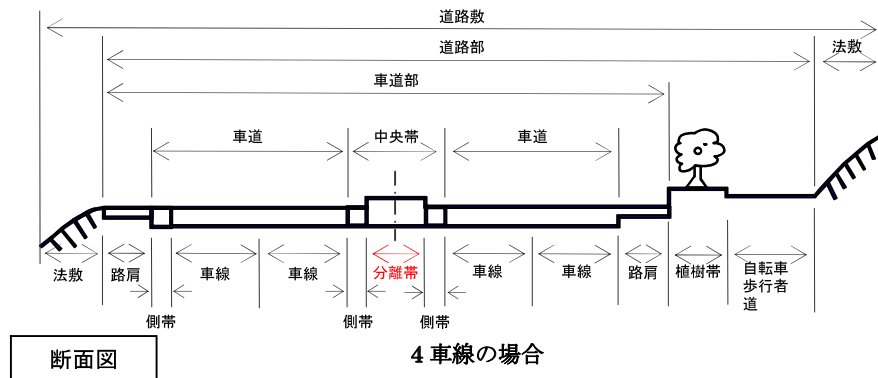
補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

分離帯

定義

同方向又は対向方向の交通流を二つの車道に分離するために道路の長手方向に設置される道路の島状の部分。



上位クラス： 島

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

分離帯の外周及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。なお、分離帯の車道側の境界線は車道外側線とする。

区間が設定できる場合は、上記の境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

分離帯に植栽が含まれる場合は、分割して作成する。

延長：Real

分離帯の延長。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

分離帯の幅員。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

分離帯の面積。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。（3桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は0.1mm以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

植栽の有無：有無区分

植栽が含まれるか否かの区分。

<定義域>

有、無

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

歩道部

定義

専ら歩行者と自転車の通行の用に供するため、工作物により車道部と区画して設置される道路の部分。

上位クラス： 道路面地物

抽象/具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

歩道部の外周となる境界線及び区間によって構成される領域を定義する。

延長 : Real

歩道部の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員 : Real

歩道部の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積 : Real

歩道部の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は0.1mm以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装,
ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

含む[0..n]：植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

部分自歩道

定義

歩道部のうち、専ら歩行者あるいは自転車の通行の用に供するために、車道部と物理的に区画または分離して設けられた道路の部分の抽象クラス。

上位クラス：歩道部

抽象／具象区分：抽象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

部分自歩道の外周となる境界線及び区間によって構成される領域を定義する。

延長：Real

部分自歩道の延長。
単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。
<取得基準>
道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

部分自歩道の幅員。
単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。
<取得基準>
道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

部分自歩道の面積。
単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）
<取得基準>
当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。
<定義域>
未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

左右：左右区分

当該地物が起点側から見た場合に、道路中心線に対し左右どちらに属するかの区分。
<定義域>
左, 右

構造形式：歩道構造形式区分

部分自歩道と車道部の境界部分における構造的な形式による区分。
<定義域>
フラット, セミフラット, マウントアップ, 切り下げ

橋梁部詳細[0..1]：部分自歩道_橋梁部詳細

橋梁部の当該地物に関する詳細情報。境界ブロック幅および立ち上り高を入力する。
<取得基準>
当該地物が橋梁に含まれている場合にのみ取得する。

関連役割**含む[0..n]：路線**

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

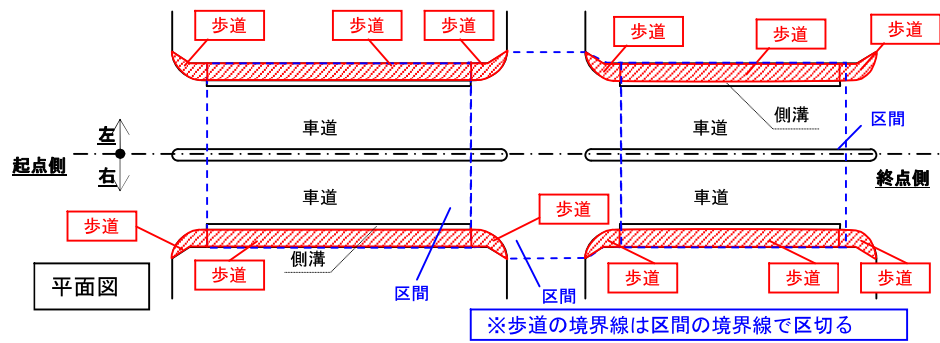
含む[0..n]：植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

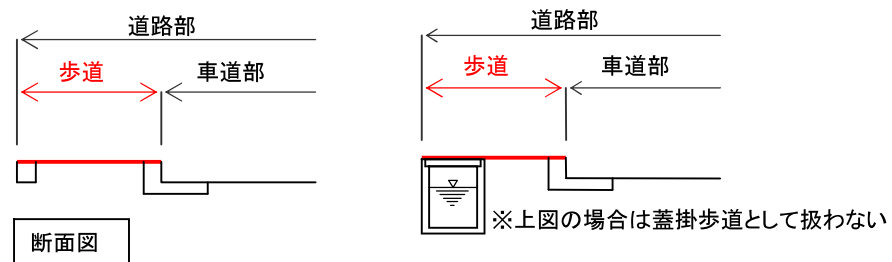
歩道

定義

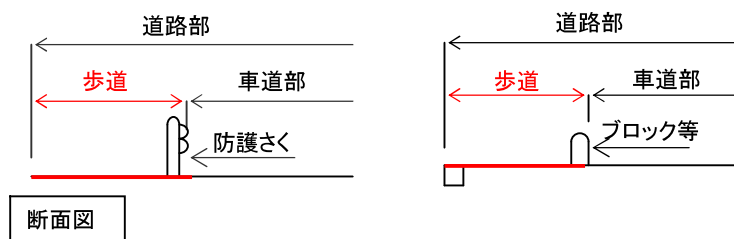
部分自歩道のうち、車道部に併設された歩道。



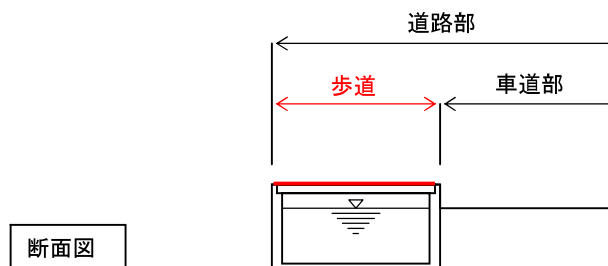
規格歩道：構造的に一定の規格に基づき設けられたもの



準歩道：ガードパイプ等により車道と歩道が分離されているもの



蓋掛歩道：U型側溝等の蓋掛け部が歩道となっているもの



上位クラス： 部分自歩道

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は，当該データを作成した日を取得する。

また，データ更新（又は削除）日は，作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

歩道の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

延長：Real

歩道の延長。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

歩道の幅員。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

歩道の面積。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い，座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別，舗装厚，舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利，未舗装_その他，コンクリート舗装，コンクリート平板舗装，ブロック舗装，アスファルト系_高級瀝青，アスファルト系_中級舗装

左右：左右区分

起点側から見た場合に，当該地物が道路中心線に対し左右どちらの車線側に属するかの区分。

<定義域>

左，右

構造形式：歩道構造形式区分

歩道と車道部の境界部分における構造的な形式による区分。
形式が「準歩道」の場合は必ず「フラット」となる。

<定義域>

フラット, セミフラット, マウントアップ, 切り下げ

橋梁部詳細[0..1] : 部分自歩道_橋梁部詳細

橋梁部の当該地物に関する詳細情報。境界ブロック幅および立ち上り高を入力する。

<取得基準>

当該地物が橋梁に含まれている場合にのみ取得する。

形式 : 歩道形式区分

歩道と車道との分離方法等による区分。

- ・規格歩道 : 構造的に一定の規格に基づき設けられたもの
- ・準歩道 : ガードパイプ等により車道と歩道が分離されているもの
- ・蓋掛歩道 : U型側溝等の蓋掛け部が歩道となっているもの

<定義域>

規格歩道, 準歩道, 蓋掛歩道

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

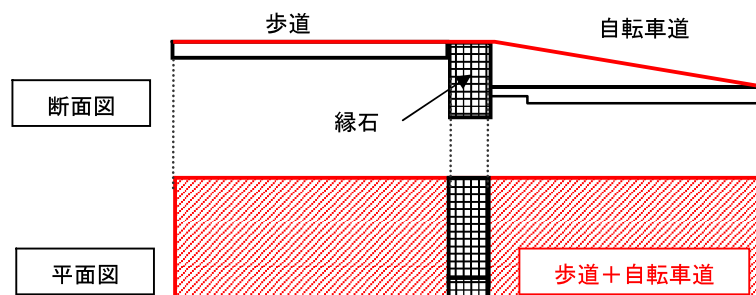
含む[0..n] : 植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連 (関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます)

歩道+自転車道

定義

部分自歩道のうち、車道部に併設され、歩道と自転車道が段差等により構造的に区画された部分。



上位クラス： 部分自歩道

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

歩道と自転車道の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

延長：Real

歩道＋自転車道の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

歩道＋自転車道の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

歩道＋自転車道の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

左右：左右区分

起点側から見た場合に、当該地物が道路中心線に対し左右どちらの車線側に属するかの区分。

<定義域>

左, 右

構造形式：歩道構造形式区分

歩道＋自転車道と車道部の境界部分における構造的な形式による区分。

<定義域>

フラット、セミフラット、マウントアップ、切り下げ

橋梁部詳細[0..1]：部分自歩道_橋梁部詳細

橋梁部の当該地物に関する詳細情報。境界ブロック幅および立ち上り高を入力する。

<取得基準>

当該地物が橋梁に含まれている場合にのみ取得する。

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

含む[0..n]：植樹ます

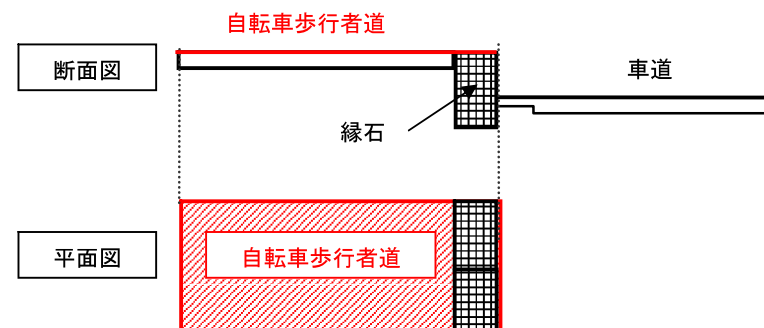
当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

自転車歩行者道

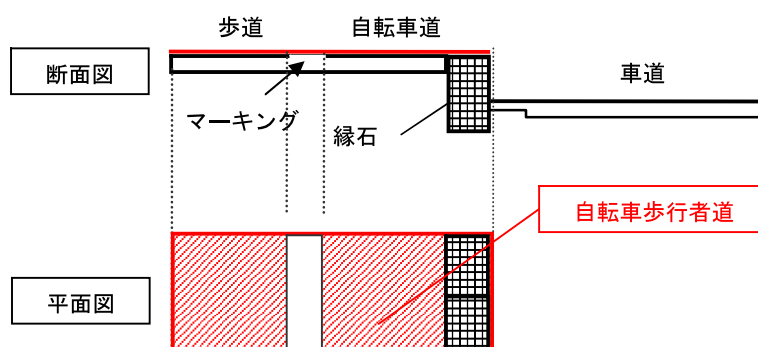
定義

部分自歩道のうち、車道部に併設され、専ら自転車及び歩行者の通行の用に供するため、縁石線又は柵その他これらに類する工作物ならびに路面へのマーキングにより区画して設置される道路の部分。

マーキングによる区分がない場合



マーキングによる区分がある場合



上位クラス： 部分自歩道

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

自転車歩行者道端、植樹帯、路肩、車道、及び区間の境界を取得し、それによって構成される領域を定義する。

延長：Real

自転車歩行者道の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

自転車歩行者道の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

自転車歩行者道の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得す

る。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

左右：左右区分

起点側から見た場合に、当該地物が道路中心線に対し左右どちらの車線側に属するかの区分。

<定義域>

左, 右

構造形式：歩道構造形式区分

自転車歩行者道と車道部の境界部分における構造的な形式による区分。

<定義域>

フラット, セミフラット, マウントアップ, 切り下げ

橋梁部詳細[0..1]：部分自歩道_橋梁部詳細

橋梁部の当該地物に関する詳細情報。境界ブロック幅および立ち上り高を入力する。

<取得基準>

当該地物が橋梁に含まれている場合にのみ取得する。

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

含む[0..n]：植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

歩道等（分離）

定義

道路法第 48 条の 13 により自転車専用道路等として指定された道路の部分、または構造的に車道と分離しているものとし、一般的には人家等の障害物により、車道部から離れて設けられたもの。

上位クラス： 部分自歩道

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

延長 : Real

歩道等（分離）の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員 : Real

歩道等（分離）の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積 : Real

歩道等（分離）の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装 : 道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

左右 : 左右区分

起点側から見た場合に、当該地物が道路中心線に対し左右どちらの車線側に属するかの区分。

<定義域>

左、右

構造形式 : 歩道構造形式区分

歩道等（分離）と車道部の境界部分における構造的な形式による区分。

<定義域>

フラット、セミフラット、マウントアップ、切り下げ

橋梁部詳細[0.1] : 部分自歩道_橋梁部詳細

橋梁部の当該地物に関する詳細情報。境界ブロック幅および立ち上り高を入力する。

<取得基準>

当該地物が橋梁に含まれている場合にのみ取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

含む[0..n] : 植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

独立専用自歩道

定義

歩道部のうち、交通の安全・快適・効率などの観点から歩行者・自転車など、特定の交通にもつばら使用される道路の抽象クラス。

上位クラス： 歩道部

抽象/具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

延長 : Real

独立専用自歩道の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員 : Real

独立専用自歩道の幅員。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

独立専用自歩道の面積。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。(3 桁以下は切り捨て)

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

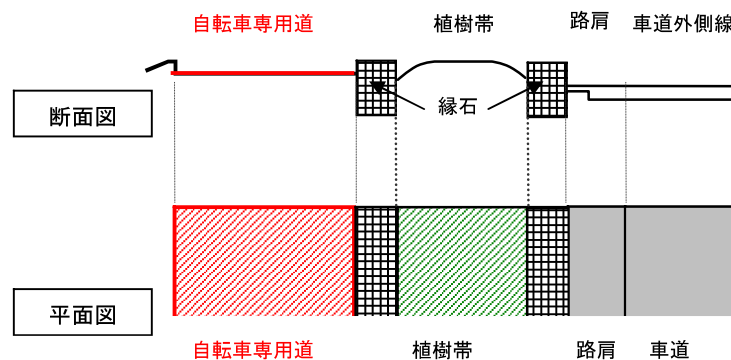
含む[0..n]：植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連 (関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます)

自転車専用道

定義

独立専用自歩道のうち、専ら自転車の通行の用に供するため、縁石線又は柵その他これらに類する工作物により区画して設置される道路の部分。



上位クラス： 独立専用自歩道

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

自転車道端、植樹帯、歩道、路肩及び区間の境界を取得し、それによって構成される領域を定義する。

延長：Real

自転車専用道の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

自転車専用道の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

自転車専用道の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

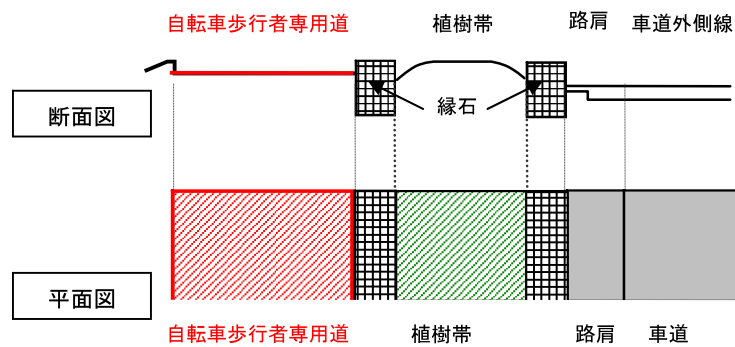
含む[0..n] : 植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

自転車歩行者専用道

定義

独立専用自歩道のうち、専ら自転車及び歩行者の通行の用に供するため、縁石線又は柵その他これらに類する工作物により区画して設置される道路の部分。



上位クラス： 独立専用自歩道

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

自転車歩行者道端、植樹帯、歩道、路肩及び区間の境界を取得し、それによって構成される領域を定義する。

延長 : Real

自転車歩行者専用道の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

自転車歩行者専用道の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

自転車歩行者専用道の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

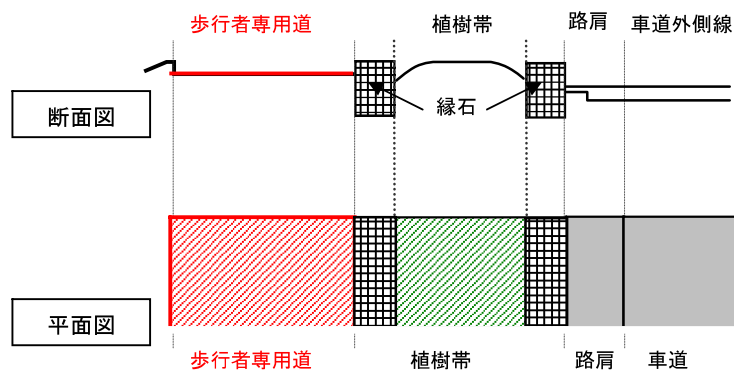
含む[0..n]：植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

歩行者専用道

定義

独立専用歩道のうち、専ら歩行者の通行の用に供するため、縁石線又は柵その他これらに類する工作物により区画して設置される道路の部分。



上位クラス： 独立専用自歩道

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

歩道端、植樹帯、自転車道、路肩及び区間の境界を取得し、それによって構成される領域を定義する。

延長：Real

歩行者専用道の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

歩行者専用道の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

歩行者専用道の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

含む[0..n] : 植樹ます

当該地物に含まれる植樹ますインスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::植樹ます）

植栽

定義

樹木を植栽するために工作物によって区画して設置される道路の部分のうち、歩道部に隣接して設置される植樹帯、及び歩道内に街路樹（並木）を植栽するための柵の部分。

上位クラス： 道路面地物

抽象／具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

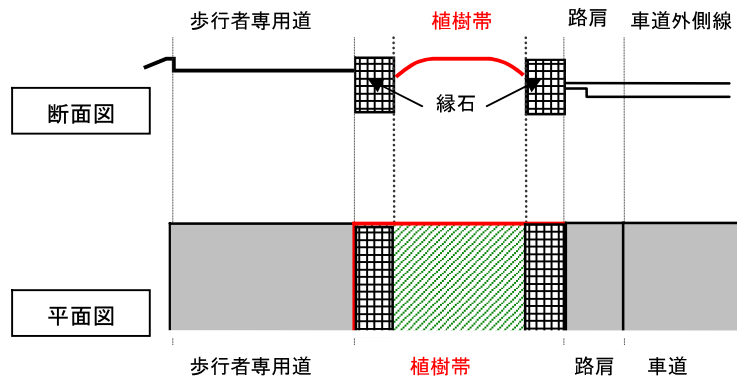
補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

植樹帯

定義

車道・歩道を含まない独立した植樹帯。



上位クラス：植栽

抽象／具象区分：具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

植樹帯を構成する縁石線や柵その他これに類する工作物、さらに区間の境界線によって構成される領域を定義する。

なお、縁石がある場合は縁石の外側線を境界線とする。

マウントアップがある場合は植樹帯を構成する縁石等の上端線を取得する。

縁石がなく、柵やその他これに類する工作物がある場合はそれらの植樹帯から見て外側下端線を境界線として取得する。

区間が設定できる場合は、上記の境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

延長：Real

植樹帯の延長。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

幅員：Real

植樹帯の幅員。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

面積：Real

植樹帯の面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

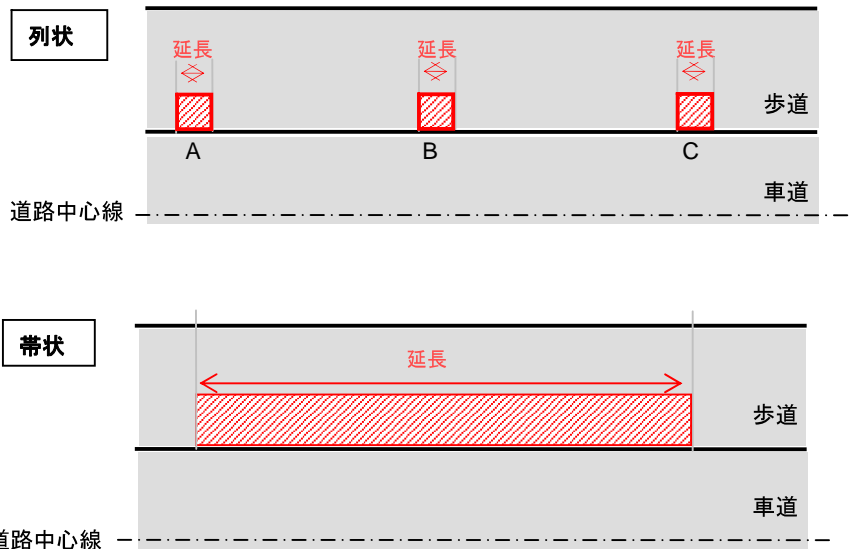
補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

植樹ます

定義

樹木を植栽するために工作物によって区画して設置される道路の部分のうち、歩道や分離帯、植樹帯内に街路樹（高木）、中・低木および芝等を植栽するための枿の部分。ただし、移動が可能なポット等で植栽してあるものは除く。



上位クラス：植栽

抽象／具象区分：具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

植樹ますの外周によって構成される領域を定義する。

延長 : Real

植樹ますの延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

面積 : Real

植樹ますの面積。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

植樹施設形状 : 植樹施設形状区分

植栽形状の区分。

連続的に植栽している場合は帯状、列状に植栽している場合は列状とする。

<定義域>

列状, 帯状

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

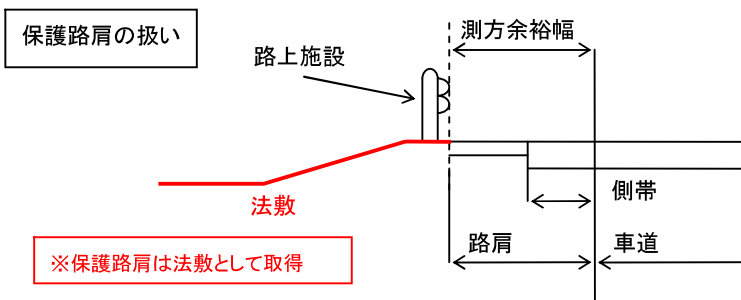
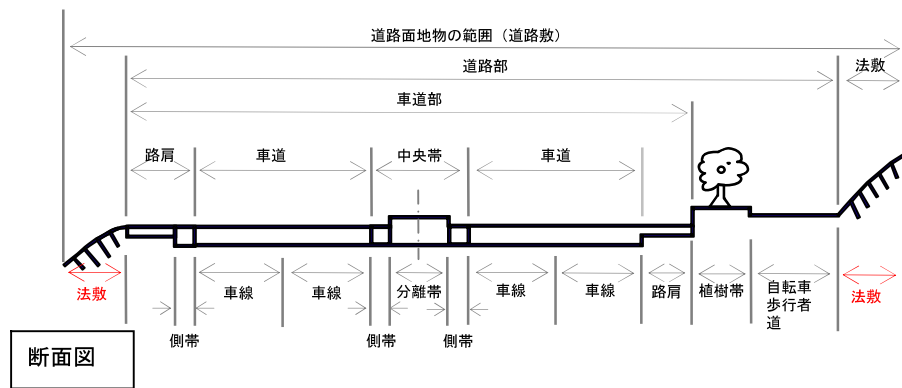
補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

法敷

定義

道路法が全面的に適用される敷地のうち、道路部の外側部分。保護路肩を含む。
道路部の外側は全て法敷として取得する（ただし、橋梁部の地覆・アーチなどは除く）。



上位クラス： 道路面地物

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間： TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲： GM_Surface

<取得基準>

橋梁部に含まれない場合については、道路敷地のうち、道路部に該当しない範囲の境界線及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

橋梁部に含まれる場合は、特に定義しない。

左右： 左右区分

起点側から見た場合に、当該地物が道路中心線に対し左右どちらの車線側に属するかの区分。

<定義域>

左, 右

幅員： Real

法敷の幅員。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

延長 : Real

法敷の延長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

面積 : Real

法敷の面積。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。(3 桁以下は切り捨て)

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装 : 道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

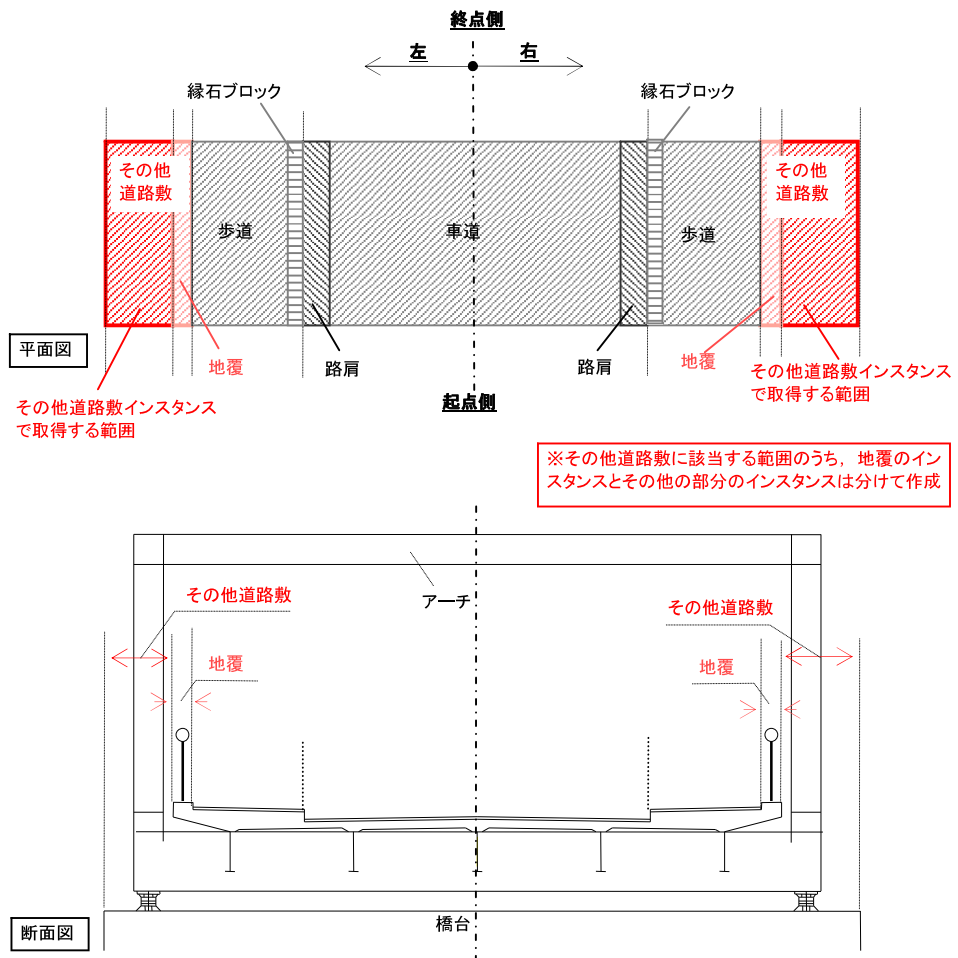
補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

その他道路敷

定義

橋梁部における道路部及び法敷以外の道路の区域。橋梁の地覆やアーチ、橋台の地下部分など。



上位クラス： 道路面地物

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

ただし、地覆に該当する領域とそれ以外の領域は異なるインスタンスとして取得する。
なお、地覆については、下位クラスである地覆クラスのインスタンスとして取得することを基本とする。

幅員：Real

その他道路敷の幅員。
単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。
<取得基準>
道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

延長：Real

その他道路敷の延長。
単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。
<取得基準>
道路中心線上の延長を取得する。

面積：Real

その他道路敷の面積。
単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。（3 桁以下は切り捨て）
<取得基準>
当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い、座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。
<定義域>
未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

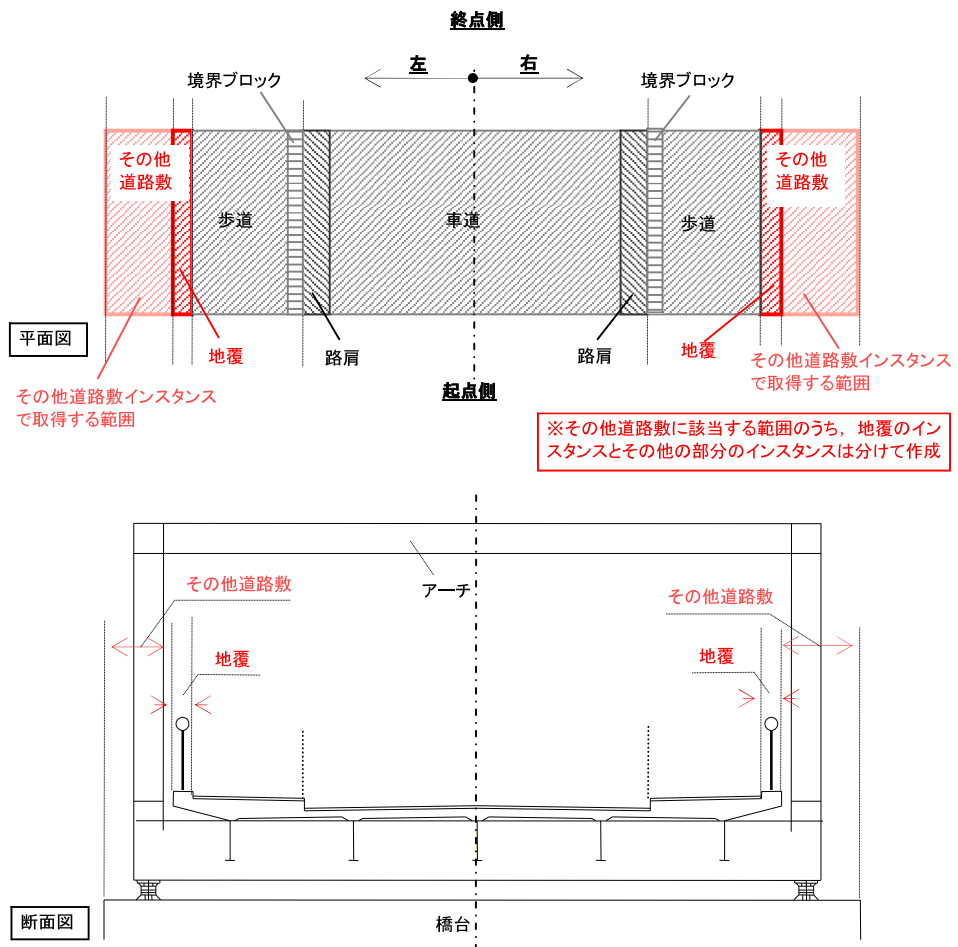
補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

地覆

定義

橋梁部における道路部及び法敷以外の道路の区域のうち、地覆に該当する部分。



上位クラス： 道路面地物

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

地覆の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

幅員 : Real

地覆の幅員。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線に対して垂直に計測した値を取得する。

延長 : Real

地覆の延長。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

面積 : Real

地覆の面積。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。(3 桁以下は切り捨て)

<取得基準>

当該地物の境界線を構成する各頂点の座標を用い, 座標法により求めた計算値を取得する。計算に用いる座標の精度は 0.1mm 以内とする。

舗装 : 道路地物_舗装

道路路面の舗装に関する情報。舗装種別, 舗装厚, 舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

左右 : 左右区分

起点側から見た場合に, 当該地物が道路中心線に対し左右どちらの車線側に属するかの区分。

<定義域>

左, 右

立ち上り高 : Real

歩道面から地覆までの高さ。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

関連役割**含む[0..n] : 路線**

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

道路地物_舗装**定義**

道路地物の舗装に関する情報。

属性

舗装種別：舗装種別区分

舗装の種類。

<取得基準>

車道アスファルト舗装は全て「アスファルト系_高級瀝青」、歩道アスファルト舗装は全て「アスファルト系_簡易舗装」とする。ただし、準歩道で車道と一体的に舗装している場合は「アスファルト系_高級瀝青」とする。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装、アスファルト系_簡易舗装

舗装厚[0.1]：Real

舗装の厚さ。

単位はcm（センチメートル）とし、小数点以下2桁とする。

<取得基準>

未舗装の場合は入力しない。

舗装面積[0.1]：Real

舗装の面積。

単位はm²（平方メートル）とし、小数点以下2桁とする。

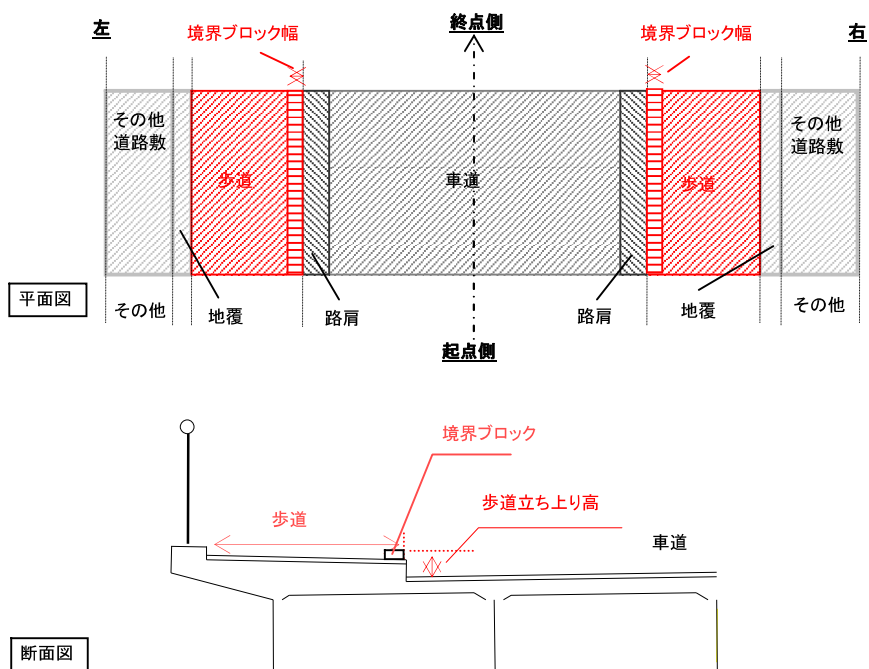
<取得基準>

未舗装の場合は入力しない。

部分自歩道_橋梁部詳細

定義

橋梁上の歩道に関する詳細な諸元情報。



属性

境界ブロック幅[0..1] : Real

部分歩道部上にある境界ブロックの幅員。
単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

歩道立ち上り高[0..1] : Real

車道面から歩道縁石部までの高さ。
単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

道路関連地物パッケージ

道路関連地物

定義

安全・円滑な通行の確保や道路管理のために必要な施設, 又は公共的機能を有するため, 道路管理者の許可を受けて道路を占有する施設で, 道路又は道路に接して設置される地物の抽象クラス。

上位クラス : 道路地物

抽象/具象区分 : 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新 (又は削除) までの期間。
<取得基準>
データ作成日は, 当該データを作成した日を取得する。
また, データ更新 (又は削除) 日は, 作成されている当該データの更新 (又は削除) を行った日を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

立体横断施設

定義

車道を横断する歩行者を車道から分離するための道路横断施設。

上位クラス： 道路関連地物

抽象/具象区分： 抽象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

昇降形式：昇降形式区分

立体横断施設の昇降方法の区分。

<定義域>

階段、スロープ、押上げ、その他

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

横断歩道橋

定義

車道を横断する歩行者を車道から分離するための通路が、道路の上方に設置される道路横断施設。

上位クラス： 立体横断施設

抽象／具象区分：具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

昇降形式：昇降形式区分

横断歩道橋の昇降方法の区分。

なお、「その他」には昇降機付き等の施設も含む。

<定義域>

階段、スロープ、押上げ、その他

舗装：道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別、舗装厚、舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利、未舗装_その他、コンクリート舗装、コンクリート平板舗装、ブロック舗装、アスファルト系_高級瀝青、アスファルト系_中級舗装関連役割

範囲：GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線及び区間の境界線によって構成される領域を取得する。

基本諸元：橋梁_基本諸元

横断歩道橋の基本的な諸元情報。

上部工：橋梁_上部工

横断歩道橋の上部工に関する情報。

下部工[2..n]：橋梁_下部工

横断歩道橋の下部工に関する情報。

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

再塗装履歴[0..n]：塗装履歴

当該地物の再塗装履歴に関するインスタンスへの関連。（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::塗装履歴）

照明施設[0..n]：照明施設

横断歩道橋内に存在する照明施設インスタンスへの関連。(関連相手先 道路関連地物パッケージ::照明施設)

地下横断歩道

定義

車道を横断する歩行者を車道から分離するための通路が、道路の下方に設置される道路横断施設。

上位クラス： 立体横断施設

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

昇降形式 : 昇降形式区分

立体横断施設の昇降方法の区分。

<定義域>

階段, スロープ, 押上げ, その他

舗装 : 道路地物_舗装

道路面の舗装に関する情報。舗装種別, 舗装厚, 舗装面積を入力する。

<定義域>

未舗装_砂利, 未舗装_その他, コンクリート舗装, コンクリート平板舗装, ブロック舗装, アスファルト系_高級瀝青, アスファルト系_中級舗装

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

地下横断歩道（階段, 斜路, 踊り場を含む）について、歩行者の通行に供する部分の外周を領域として取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

渡船施設

定義

道路法が適用される船及び接岸施設の総称。

上位クラス： 道路関連地物

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

地物の外周となる境界線によって構成される領域を取得する。

船数[0..1]：Integer

渡船施設内に存在する船の数。

運行距離[0..1]：Real

渡船施設内の渡船が運行する距離。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

所在情報[0..1]：所在区分

渡船施設の位置と行政区との位置関係。

<定義域>

自地域内、市区町村界、都道府県界

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

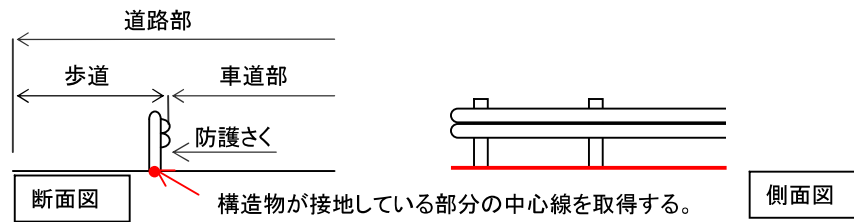
補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

柵・壁

定義

車両の路外逸脱防止，歩行者の保護，歩行者の横断抑制を目的とする柵。



上位クラス：道路関連地物

抽象／具象区分：具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は，当該データを作成した日を取得する。

また，データ更新（又は削除）日は，作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

場所：GM_Curve

<取得基準>

接地している部分の中心線を取得する。

設置箇所[0..1]：柵・壁設置箇所区分

柵・壁が設置されている箇所。

<取得基準>

橋梁部に設置されている場合は必ず入力する。

<定義域>

左車道端，右車道端，左歩道端，右歩道端，左歩車道境界，右歩車道境界，中央帯

橋梁用種別[0..1]：柵・壁橋梁用種別区分

柵・壁の種別。

<取得基準>

橋梁部に設置されている場合にのみ入力。

<定義域>

高欄（自歩行者用），橋梁用車両防護柵，高欄兼用車両防護柵，落下物防止柵

材質[0..1]：柵・壁材質区分

柵・壁の材質。

<定義域>

アルミニウム製，鋼製，鋳鉄製，ステンレス製，コンクリート製，その他

形式[0..1]：柵・壁形式区分

柵・壁の形式。

<定義域>

C種，B種，A種，SC種，SB種，SA種，SS種，ガードレール，ガードケーブル，

ガードパイプ、ボックスビーム、剛性防護柵（壁高欄）、その他

高さ[0..1] : Real

柵・壁の路面からの高さ。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

延長[0..1] : Real

柵・壁の延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

塗装[0..1] : 塗装履歴（柵・壁）

当該地物の最初の塗装に関する情報。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

再塗装履歴[0..n] : 塗装履歴（柵・壁）

柵・壁の再塗装履歴情報を持つ塗装履歴（柵・壁）インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::塗装履歴（柵・壁））

二回目以降の塗装はこの関連を用いる。

照明施設

定義

道路利用者に視覚情報を与え、道路の状況をその全体の姿と安全性に関連する個々のものについて十分知覚させるために設置する施設。

上位クラス： 道路関連地物

抽象／具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

地点 : GM_Point

<取得基準>

支柱がある場合は、支柱の接地中心位置を取得する。

支柱がない場合は、照明灯の中心位置を正射影した位置を取得する。

照明種別[0..1] : 照明種別区分

照明の種別。

<定義域>

ナトリウム燈, 蛍光燈, 水銀燈, その他, 上記各種併用

設置年月日[0..1] : TM_Instant

照明施設を設置した年月日。

記述方式は、「YYYY-MM-DD」（例：2008年10月1日 → 2008-10-01）とする。

灯数[0..1] : Integer

当該施設に設置されている照明灯の数。

出力[0..1] : Integer

照明の定格出力。

単位はW（ワット）とする。

施工業者[0..1] : CharacterString

当該照明施設の施工を行った会社。

<取得基準>

施工会社の社名を入力する。

塗装[0..1] : 塗装履歴（道路施設）

照明施設の塗装に関する情報。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

再塗装履歴 [0..n] : 塗装履歴（道路施設）

照明施設の再塗装履歴情報を持つ塗装（道路施設）インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::塗装履歴（道路施設））

二回目以降の塗装はこの関連を用いる。

排水施設

定義

道路の保全、交通の安全性の確保を目的とする、排水のための施設の抽象クラス。

上位クラス： 道路関連地物

抽象／具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

排水施設の外周及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

排水溝

定義

道路の表面水又は浸透水等を排除するための溝の総称。

上位クラス： 道路関連地物

抽象／具象区分： 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

排水溝の外周及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

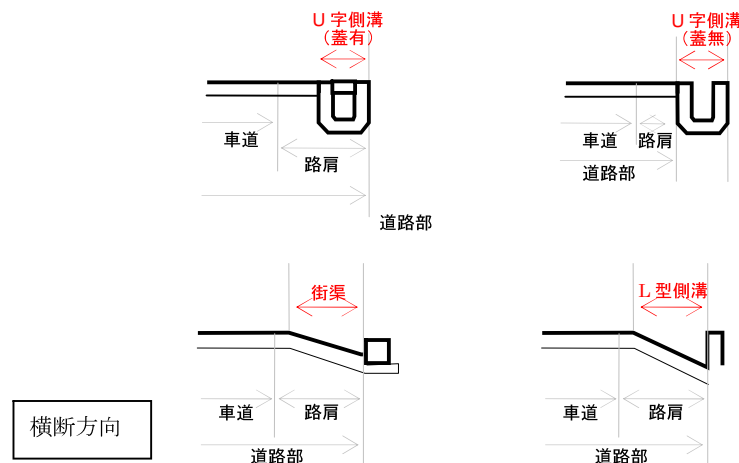
補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

側溝

定義

主として道路の表面水を排除するために地表面に設置される排水溝。路面又は法面等に降った雨水を集め、排水するため路側又は歩車道境界等に設置する溝。



上位クラス： 道路関連地物

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

側溝の外周及び区間の境界線によって構成される領域を定義する。

種別 : 側溝種別区分

側溝の種別区分。

<定義域>

L型側溝, U型側溝, 街渠, その他

蓋の有無 : 有無区分

側溝に蓋があるか否か。

<定義域>

有, 無

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連 (関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴)

道路支持地物パッケージ

道路支持地物

定義

道路基本地物はその機能を果たすために必要となる地物の抽象クラス。

上位クラス : 道路地物

抽象/具象区分 : 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新 (又は削除) までの期間。

<取得基準>

データ作成日は, 当該データを作成した日を取得する。

また, データ更新 (又は削除) 日は, 作成されている当該データの更新 (又は削除) を行った日を取得する。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連 (関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線)

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連 (関連相手先 道路区間パッケージ::区間)

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

支持される [0..n] : 道路面地物

当該地物が支持する道路面地物インスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::道路面地物の下位クラス）

トンネル

定義

上方を含め周辺が地山や他の構造物で覆われている、交通、輸送等に供する構造物。

上位クラス： 道路支持地物

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

トンネル（坑門から坑門まで）内の道路面の外周を領域として取得する。

区間とは別に作成する。

トンネル番号 [0..1] : Integer

トンネルごとに付番された一意の番号。

トンネル名 : トンネル_トンネル名

トンネルの名称。

<取得基準>

トンネルの名称を取得する。

工事の段階で確定していない場合は”不明”もしくはデータ作成時点での仮称を入力する。

トンネル分類 : トンネル分類区分

陸上トンネル・水底トンネルの別とその工法の分類。

水底トンネルとは、海、湖沼および河川に設けられたものをいう。

シールド工法は、掘進工法として分類する。

<定義域>

陸上トンネル_掘進工法、陸上トンネル_開削工法、陸上トンネルその他、
水底トンネル_掘進工法、水底トンネル_沈埋工法、水底トンネル_開削工法、
水底トンネル_その他

延長 : Real

トンネルの延長。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

坑門（入口）から坑門（出口）までの延長を入力する。

有効高：Real

車道端からの垂直線が壁面または天井板と交わるまでの高さ。片勾配の場合、有効高の低い方を計上する。

単位はm（メートル）とし、小数点以下2桁とする。

壁面区分：壁面区分

トンネル壁面の内装工法の区分。

- ・素堀：掘削後地肌のままのもの
- ・吹付：地肌をセメント・モルタル等の材料で吹付工法により被覆しているもの
- ・覆工：地肌を被覆しているもので吹付け工法によらないもの

<定義域>

内装なし_素堀, 内装なし_吹き付け, 内装なし_覆工, 内装なし_ブロック張り工法,
内装あり_ブロック張り工法, 内装あり_パネル張り工法, 内装あり_タイル張り工法,
内装あり_その他

建設年次：TM_Instant

トンネルの建設竣工年次。

記述方式は、「YYYY」（例：2008年 → 2008）とする。

排水施設：排水施設区分

トンネル内の排水施設の区分。

<定義域>

素堀, U型, L型, その他

所在区分：所在区分

トンネルの位置と行政区との位置関係を表す区分。

<定義域>

自地域内, 市区町村界, 都道府県界

換気施設：換気施設区分

トンネルの換気施設の設置状況。

<定義域>

機械換気施設なし, 機械換気縦流式（噴霧式）, 機械換気縦流式（立杭式）,
機械換気縦流式（その他）, 機械換気半横流式, 機械換気横流式, 機械換気その他

通報装置：通報装置区分

トンネルの通報装置（火災等の事故の発生をトンネル管理所などへ通報する装置）の設置状況。

<定義域>

通報装置なし
押ボタン式通報装置
非常電話
自動通報装置
押ボタン式通報装置＋非常電話
押ボタン式通報装置＋自動通報装置
非常電話＋自動通報装置
押ボタン式通報装置＋非常電話＋自動通報装置

非常警報装置：非常警報装置区分

トンネルの非常警報装置（火災や交通事故等が発生した場合に、トンネル内外の走行車に対して必要な警報を行う装置）の設置状況。

<定義域>

通報装置なし
警報表示板
点滅燈（警告燈）
音信号発生器
警報表示板＋点滅燈（警告燈）
警報表示板＋音信号発生器
点滅燈（警告燈）＋音信号発生器
警報表示板＋点滅燈（警告燈）＋音信号発生器

消火設備：消火設備区分

トンネルの消火設備の設置状況。

<定義域>

消火設備なし，消火器，消火栓，消火器＋消火栓

その他設備：その他設備区分

トンネルのその他の非常用設備の設置状況。

<定義域>

その他設備なし
自動水噴霧装置
避難及び誘導設備
非常用電源設備
自動水噴霧装置
避難及び誘導設備
自動水噴霧装置＋非常用電源設備
避難及び誘導設備＋非常用電源設備
自動水噴霧装置＋避難及び誘導設備＋非常用電源設備

関連役割

含む[0..n]：路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1]：区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n]：補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

支持される [0..n]：道路面地物

当該地物が支持する道路面地物インスタンスへの関連（関連相手先 道路基本地物パッケージ::道路面地物の下位クラス）

照明施設[0..n]：照明施設

トンネル内に存在する照明施設インスタンスへの関連（関連相手先 道路関連地物パッケージ::照明施設）

トンネル_トンネル名

定義

トンネルの名称。

属性

トンネル名 : **CharacterString**

トンネルの名称。

<取得基準>

トンネルの名称を取得する。

工事の段階で確定していない場合は，“不明”もしくはデータ作成時点での仮称を入力する。

トンネル名 (カナ) : **CharacterString**

トンネル名の読み仮名。

かなの種類は全角カタカナとする。

橋梁パッケージ

橋梁

定義

道路において、交通の障害となる河川、溪谷、湖沼、海峡、鉄道、水路、他の道路等の上方に、これを横断するために設置される構造物の総称。市街地において、道路上又は河川上の空間に連続して建設される高架橋も、橋梁の一形態である。

上位クラス： 道路支持地物

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : **TM_Period**

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲[0..n] : **GM_Surface**

<取得基準>

道路面の高さにおいて、橋梁上部工の外周を領域として取得する。

ただし、橋梁区分が横断歩道橋の場合は取得しない。

区間とは別に作成する。

基本諸元 : **橋梁_基本諸元**

橋梁の基本的な諸元情報。

取付道路 : **橋梁_取付道路**

橋梁の取付道路部分の諸元情報。

上部工 : **橋梁_上部工**

橋梁の上部工に関する情報。

下部工[2..n] : **橋梁_下部工**

橋梁の下部工に関する情報。

関連役割

含む[0..n] : 路線

当該地物が属する路線インスタンスへの関連（関連相手先 道路竣工データパッケージ::路線）

区間[0..1] : 区間

当該地物が関係する区間インスタンスへの関連（関連相手先 道路区間パッケージ::区間）

補修改良履歴[0..n] : 補修改良履歴

当該地物が関係する補修改良履歴インスタンスへの関連（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::補修改良履歴）

再塗装履歴[0..n] : 塗装履歴

橋梁の再塗装履歴情報に関するインスタンスへの関連。（関連相手先 道路施設維持管理履歴パッケージ::塗装履歴クラス）

二回目以降の塗装に関する情報はこの関連を用いる。

支持される[0..n] : 道路面地物

橋梁内に存在する道路面地物の下位クラスの各インスタンスへの関連。（関連相手先 道路基本地物パッケージ::道路面地物クラスの下位クラス）

照明施設[0..n] : 照明施設

橋梁内に存在する照明施設インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::照明施設クラス）

柵・壁[0..n] : 柵・壁

橋梁内に存在する柵・壁インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連パッケージ::柵・壁クラス）

橋梁_基本諸元

定義

橋梁の属性情報のうち、基本的な諸元情報。

属性

橋梁名 : 基本諸元_橋梁名

橋梁の名称と読み仮名。

<取得基準>

工事の段階で確定していない場合は”不明”もしくはデータ作成時点での仮称を入力する。

橋梁番号[0..1] : CharacterString

道路管理者が定めた一連の番号。

<定義域>

各橋梁で一意とする。

位置 : 基本諸元_位置

起点及び終点側の住所。

所在区分 : 所在区分

橋梁の位置と行政界との位置関係。

<定義域>

自地域内, 市区町村界, 都道府県界

橋格：橋格区分

橋梁の橋格の区分。

<定義域>

1等橋, 2等橋, その他, 歩道橋

橋梁の種類：橋梁種類区分

橋の種類に関する区分。

<定義域>

橋, 高架橋, 栈道橋

本線等区分：本線等区分

橋梁が本線もしくはその他に設置されているかに関する区分。

<定義域>

本線橋, 側道橋, ランプ橋, 歩道橋

重要度区分：重要度区分

橋梁の重要度の区分。重要度区分の設定されていない橋梁については, その他と入力する。

<定義域>

A種, B種, その他

橋長：Real

橋全体の長さ。

単位はm(メートル)とする。

最大支間長：Real

1橋の中で最大の支間長。

単位はm(メートル)とする。

平面形状：平面形状区分

橋梁の平面形状に関する区分。

<定義域>

直線橋, 曲線橋

路面位置：路面位置区分

橋梁の路面位置に関する区分。

<定義域>

上路式, 中路式, 下路式, 二層式, その他

橋台敷面積[0..1]：基本諸元_橋台敷面積

右岸上流, 右岸下流, 左岸上流, 左岸下流側にある各橋台敷の面積。

桁下空間の限界値[0..1]：基本諸元_桁下空間の限界値

橋梁の桁下空間に係わる限界値。

桁下端高の制限値, 桁下空間高の制限値, 桁下空間幅の制限値を入力する。

標高[0..1]：基本諸元_標高

橋梁の標高値。

中央桁下端高, 最低桁下端高, 最低河床高, 橋下路面高を入力する。

設計活荷重[0..1]：設計活荷重区分

橋梁設計時に設定した活荷重。

設計震度[0..1]：基本諸元_設計震度

設計震度の値。
設計水平震度と設計鉛直震度を入力する。

付属物[0..1] : 基本諸元_付属物

当該橋梁における付属物の有無や形式に関する情報。

交差物件[0..n] : 基本諸元_交差物件

当該橋梁における交差物件に関する情報。
鉄道、河川等に対する情報を入力する。

用地面積[0..n] : 基本諸元_用地面積

当該橋梁における用地面積に関する情報。
水路、河川、鉄道等に対する情報を入力する。

年月 : 基本諸元_年月

当該橋梁における時間に関する情報。
着工年月、完成年月、供用年月を入力する。

適用示方書[0..1] : 基本諸元_適用示方書

当該橋梁における適用示方書に関する情報。
適用示方書の種類やその他示方書に関する情報を入力する。

ボーリング資料[0..n] : CharacterString

地質調査業務名を記載する。

基本諸元_橋梁名

定義

橋梁の名称に関する情報。

属性

橋梁名 : CharacterString

橋梁の名称。
<取得基準>
橋梁の名称を取得する。
工事の段階で確定していない場合は”不明”もしくはデータ作成時点での仮称を入力する。

橋梁名(カナ) [0..1] : CharacterString

橋梁名の読み仮名。
かなの種類は全角カタカナとする。

基本諸元_位置

定義

橋梁の位置に関する情報。

属性

起点 : 位置区分

起点側の所在位置を表す住所。
下記の位置区分から選択する。
<定義域>

(区)	位置区分
北区	北区荒川右岸提, 北区東十条, 北区王子, 北区豊島, 北区堀船, 北区栄町, 北区昭和町, 北区田端新町, 北区東田端, 北区田端, 北区中里, 北区上中里, 北区岸町, 北区王子本町, 北区滝野川, 北区西ヶ原, 北区十条仲原, 北区中十条, 北区十条台, 北区岩淵町, 北区志茂, 北区神谷, 北区赤羽南, 北区赤羽, 北区浮間, 北区赤羽北, 北区赤羽台, 北区桐ヶ丘, 北区赤羽西
板橋区	板橋区東坂下
足立区	足立区新田

終点：位置区分

終点側の所在位置を表す住所。

下記の位置区分から選択する。

<定義域>

(区)	位置区分
北区	北区荒川右岸提, 北区東十条, 北区王子, 北区豊島, 北区堀船, 北区栄町, 北区昭和町, 北区田端新町, 北区東田端, 北区田端, 北区中里, 北区上中里, 北区岸町, 北区王子本町, 北区滝野川, 北区西ヶ原, 北区十条仲原, 北区中十条, 北区十条台, 北区岩淵町, 北区志茂, 北区神谷, 北区赤羽南, 北区赤羽, 北区浮間, 北区赤羽北, 北区赤羽台, 北区桐ヶ丘, 北区赤羽西
板橋区	板橋区東坂下
足立区	足立区新田

基本諸元_橋台敷面積

定義

右岸上流, 右岸下流, 左岸上流, 左岸下流側にある各橋台敷の面積。

属性

右岸上流面積：Real

右岸上流部側の橋台敷の面積。

単位は m^2 (平方メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

右岸下流面積：Real

右岸下流部側の橋台敷の面積。

単位は m^2 (平方メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

左岸上流面積：Real

左岸上流部側の橋台敷の面積。

単位は m^2 (平方メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

左岸下流面積：Real

左岸下流部側の橋台敷の面積。

単位は m^2 (平方メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

基本諸元_桁下空間の制限値

定義

橋梁の桁下空間における制限値。

属性

桁下端高の制限値 : Real

橋梁の桁下端高さの制限値。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

<取得基準>

架橋位置における橋梁の桁下端高さの制限値を入力する。

桁下空間高の制限値 : Real

桁下空間に確保すべき空間の高さ方向の制限値。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

<取得基準>

航路などの建築限界の制限値を入力する。

桁下空間幅の制限値 : Real

橋梁における通行者路の幅の制限値。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

<取得基準>

通行者路の幅の制限値を入力する。

基本諸元_標高

定義

橋梁の標高に関する属性情報。

属性

中央桁下端高 : Real

支間中央の主桁下端の標高。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

最低桁下空間高 : Real

桁下空間における高さの最低値。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

最低河床高 : Real

当該橋梁に係る河床の最低標高。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

橋下路面高 : Real

当該橋梁の下を通る通路における路面の標高。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

基本諸元_設計震度

定義

設計震度の値。

属性

設計水平震度 : Real

設計水平震度の値。

小数点以下2桁とする。

設計鉛直震度：Real

設計鉛直震度の値。
小数点以下2桁とする。

基本諸元_付属物

定義

橋梁の付属物に関する属性情報。

属性

橋名板有無[0..1]：有無区分

当該橋梁における橋名板の有無。

<定義域>
有, 無

橋歴板有無[0..1]：有無区分

当該橋梁における橋歴板の有無。

<定義域>
有, 無

踏掛板有無[0..1]：有無区分

当該橋梁における踏掛板の有無。

<定義域>
有, 無

点検施設有無[0..1]：有無区分

当該橋梁における点検施設の有無。

<定義域>
有, 無

検査路有無[0..1]：有無区分

当該橋梁における検査路の有無。

<定義域>
有, 無

遮音壁有無[0..1]：有無区分

橋梁に設置されている遮音壁の有無。

<定義域>
有, 無

排水施設形式[0..1]：排水施設形式区分

橋梁に設置されている排水施設の形式。

<定義域>
たれ流し, 横引き, その他

基本諸元_交差物件

定義

橋梁との交差物件に関する情報。

属性

交差物件の名称：CharacterString

交差箇所の名称。

管理者：CharacterString

橋梁と交差している各施設の管理者。

直角平行：直角平行区分

交差物の橋梁に対する位置方向。

<取得基準>

交差している場合は全て「直角」とする。

<定義域>

直角, 平行

第三者被害可能性の有無[0..1]：有無区分

第三者の被害可能性の有無。

<取得基準>

交差道路上の車や人などにコンクリート片が落下する可能性がある場合などは「有」とする。

<定義域>

有, 無

道路[0..1]：交差物件_道路

当該橋梁と交差する道路に関する情報。

河川[0..1]：交差物件_河川

当該橋梁と交差する河川に関する情報。

鉄道[0..1]：交差物件_鉄道

当該橋梁と交差する鉄道に関する情報。

その他[0..1]：交差物件_その他

当該橋梁と交差するその他物件に関する情報。

交差物件_道路

定義

橋梁と交差する道路に関する情報。

属性

分類：道路種類区分

橋梁と交差している道路の分類。

<定義域>

一般国道（指定区間），一般国道（指定区間外），主要地方道，一般都道，特例都道，首都高速道路，一級区道，二級区道，その他区道，認定外区道

交差物件_河川

定義

橋梁と交差する河川に関する情報。

上位クラス：基本諸元_交差物件

属性

分類：河川分類区分

橋梁と交差している河川の分類。

<定義域>

新河岸川本川, 新河岸川支川, 隅田川本川, 隅田川支川, 石神井本川, 石神井支川

河川改修計画策定年次[0..1]：TM_Instant

当該橋梁と交差している河川の改修計画を策定した年次。

記述方式は, 「YYYY」(例: 2008年 → 2008) とする。

河川改修計画種類[0..1]：CharacterString

河川改修計画の種類。

河川改修計画当初実施年度[0..1]：TM_Instant

河川改修計画の当初の実施年度。

記述方式は, 「YYYY」(例: 2008年 → 2008) とする。

架橋地点付近河川改修予定年度[0..1]：TM_Instant

架橋地点における河川改修を予定している年度。

記述方式は, 「YYYY」(例: 2008年 → 2008) とする。

河川改修計画内容[0..1]：CharacterString

河川改修計画の内容。

計画流量[0..1]：Real

河川の洪水計画流量。

河川流量[0..1]：Real

橋梁計画上の洪水計画流量。

H.W.L[0..1]：Real

河川の計画高水位。

H.W.L 確率年[0..1]：Real

計画洪水位の設定確率年。

交差物件_鉄道

定義

橋梁と交差する鉄道に関する情報。

属性

分類：鉄道分類区分

橋梁と交差している鉄道の分類。

<定義域>

東北本線, 埼京線, 京浜東北線, 山手線

交差物件_その他

定義

橋梁と交差するその他物件に関する情報。

属性

分類：その他交差物件区分

橋梁と交差しているその他交差物件の分類。

<定義域>

その他

基本諸元_用地面積

定義

橋梁の用地の種別とその面積に関する情報。

属性

水路[0..1]：Real

当該橋梁に係る水路用地の面積。

単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

河川[0..1]：Real

当該橋梁に係る河川用地の面積。

単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

鉄道[0..1]：Real

当該橋梁に係る河川用地の面積。

単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

その他[0..1]：Real

当該橋梁に係る道路、水路、河川、鉄道以外の用地面積。

単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

基本諸元_年月

定義

当該橋梁の時間に関する属性情報。

属性

着工年月：TM_Instant

橋梁を着工した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」(例：2008年1月 → 2008-01) とする。

<取得基準>

当該橋梁に係わる複数の工事のうち、最初に実施した工事の着工年月を取得する。

完成年月：TM_Instant

橋梁が完成した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」(例：2008年1月 → 2008-01) とする。

<取得基準>

橋梁が完成した年月は、橋名版および橋歴版に記載された完成年月を取得する。

供用年月[0..1]：TM_Instant

橋梁の供用を開始した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」(例：2008年1月 → 2008-01) とする。

<取得基準>

橋梁が供用された年月を取得する。新設の場合は入力しない。

基本諸元_適用示方書

定義

当該橋梁で適用している示方書に関する属性情報。

属性

適用示方書：適用示方書区分

橋梁設計時に適用した示方書。

<定義域>

適用示方書不明

大正 15 年道路構造に関する細則案

昭和 14 年鉄道路橋設計示方書案

昭和 31 年鋼道橋設計示方書

昭和 32 年溶接鋼道路橋示方書

昭和 39 年鋼道路橋設計示方書（改訂）

昭和 39 年鉄筋コンクリート道路橋設計示方書

昭和 43 年道路橋設計示方書

昭和 47 年道路橋示方書

昭和 53 年道路橋示方書

昭和 55 年道路橋示方書

平成 2 年道路橋示方書

平成 6 年道路橋示方書

平成 7 年道路橋示方書

平成 8 年道路橋示方書

平成 11 年道路橋示方書

その他示方書等[0..n]：CharacterString

「適用示方書」以外に橋梁設計に適用した特別に明記すべき規準・指針類の名称。

橋梁_取付道路

定義

橋梁の属性情報のうち、取付道路の諸元情報。

属性

面積：Real

取付道路の面積。

単位は m^2 （平方メートル）とし、小数点以下 3 桁とする。

延長[1..n]：取付道路_延長

取付道路の延長に関する情報。

上部死荷重[0..1]：上部工_上部死荷重

取付道路部の上部死荷重に関する情報。

重量と床版の単位面積あたりの重量を入力する。

上部工主要材料[0..1]：上部工_主要材料

上部工の主要材料について、取付道路における重量と体積をそれぞれ入力する。

下部工主要材料[0..1] : 下部工_主要材料

下部工の主要材料について、取付道路における重量と体積、数量をそれぞれ入力する。

取付道路_延長

定義

取付道路の延長に関する属性情報。径間ごとに入力する。

属性

径間番号 : Integer

取付道路と隣接する径間部の径間番号。

右岸 : 延長_諸元

右岸側の取付道路の延長に関する情報。

左岸 : 延長_諸元

左岸側の取付道路の延長に関する情報。

延長_諸元

定義

取付道路の延長に関する諸元情報。

属性

全長 : Real

取付道路の全長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

陸橋部延長[0..1] : Real

取付道路の陸橋部のみの延長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

盛土部延長[0..1] : Real

取付道路のうち盛土部のみの延長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

橋梁_上部工

定義

橋梁の上部工に共通する属性情報。

属性

工事費[0..1] : 上部工_工事費

上部工の工事費に関する情報。

防水工[0..1] : 上部工_防水工

上部工の防水工に関する情報。

上部死荷重[0..1] : 上部工_上部工死荷重

橋梁部の上部死荷重に関する情報。
重量と床版の単位面積あたりの重量を入力する。

主要材料[0..1] : 上部工_主要材料

上部工の主要材料について、橋梁部における数量をそれぞれ入力する。

径間[1..n] : 上部工_径間

上部工の径間に関する情報。

上部工_工事費

定義

橋梁上部工に共通する属性情報のうち、工事費に関する属性情報。

属性

架設工事費[1..n] : 架設工事費_架設工法・工事費

架設工法と架設工事費を入力する。

主桁製作費 : Integer

主桁の制作費。
単位は円とする。

床版工事費 : Integer

床版の工事費。
単位は円とする。

架設工事費_工法・工事費

定義

橋梁上部工に共通する属性情報のうち、架設工法及び工事費に関する属性情報。

属性

架設工法 : 架設工法区分

架設工法を入力する。

<定義域>

トラッククレーン
ケーブルクレーン
送出し
トラベルクレーン
架設桁
フローティングクレーン
門形クレーン
（場所打ち）固定支保工
（場所打ち）片持ち
（場所打ち）移動支保工
（場所打ち）押出し
（場所打ち）アーチ斜吊り
その他

工事費 : Integer

架設工の工事費を入力する。

現場で施工するコンクリート橋の施工費用についてもここに入力する。
単位は円とする。

上部工_防水工

定義

橋梁上部工に共通する属性情報のうち、防水工に関する属性情報。

属性

種類：防水工種類区分

防水工の種類。

<定義域>

塗膜, シート, その他

範囲：防水工範囲区分

防水工の施工範囲。

<定義域>

全面, 車道部, 中間支点, 端支点

面積：Real

防水工の施工面積。

単位は m^2 (平方メートル) とし, 小数点以下2桁とする。

実施年度：TM_Instant

防水工の実施年度。

記述方式は, 「YYYY」(例: 2008年 → 2008) とする。

<取得基準>

防水工事の工事完了年度を取得する。

上部工_上部死荷重

定義

橋梁上部工に共通する属性情報のうち, 上部死荷重に関する属性情報。

属性

重量：Real

上部工の重量。

単位はt (トン) とし, 小数点以下2桁とする。

単位面積あたり重量：Real

床版の m^2 (平方メートル) あたりの上部工重量。

単位は t/m^2 (トン毎平方メートル) とする。

上部工_主要材料

定義

橋梁上部工に共通する属性情報のうち, 主要材料に関する属性情報。

属性

主鋼材[0..1] : Real

上部工で使用している主鋼材の重量を入力する。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

鉄筋[0..1] : Real

上部工で使用している鉄筋の重量を入力する。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

PC 鋼材[0..1] : Real

上部工で使用している PC 鋼材の重量を入力する。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

高欄材[0..1] : Real

上部工で使用している高欄材の重量を入力する。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

コンクリート[0..1] : Real

上部工で使用しているコンクリートの面積を入力する。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

アスファルトコンクリート[0..1] : Real

上部工で使用しているアスファルトコンクリートの重量を入力する。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

石材[0..1] : Real

上部工で使用している石材の面積を入力する。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

木材[0..1] : Real

上部工で使用している木材の面積を入力する。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

上部工_径間**定義**

橋梁上部工における各径間に関する属性情報。

属性**径間番号 : Integer**

径間の番号。

<取得基準>

当該橋梁において一意となるように 1 から順番に付番する。

人道橋区分 : 人道橋区分

当該径間部分が人道橋であるかの区分。

<定義域>

人道橋, その他

径間長 : Real

径間の長さ。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

延長 : Real

橋梁の総延長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

構造形式：径間_構造形式

上部工の構造形式。

たわみ[0..1]：径間_たわみ

当該径間の主桁たわみの情報。

死荷重たわみ及び活荷重たわみの値を入力する。

斜角[0..1]：径間_斜角

当該径間の斜角に関する情報。

起点側及び終点側の斜角を入力する。

曲線半径[0..1]：Real

当該径間における曲線半径。

単位を m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

主構造：径間_主構造

当該径間の主構造に関する情報。

主桁、鋼材、コンクリート、PC 鋼材に関する情報を入力する。

横桁・縦桁[0..1]：径間_横桁・縦桁

上部工の横桁及び縦桁に関する情報。

材質、桁高、間隔を入力する。

床版[0..1]：径間_床版

当該径間の床版に関する情報。

伸縮装置[0..1]：径間_伸縮装置

当該径間の伸縮装置に関する情報。

起点側と終点側にある装置について、形式と製品名を入力する。

支承[0..1]：径間_支承

当該径間の起点側の支承に関する情報。

起点側と終点側にある装置について、種別、機能の区分、高さを入力する。

塗装[0..1]：塗装履歴（橋梁上部工）

当該径間の当初の塗装に関する情報。

桁下利用状況：桁下利用状況区分

当該径間の桁下空間の利用用途。

<取得基準>

橋梁パッケージ::基本諸元サブパッケージ::基本諸元_交差物件 の属性「第三者被害可能性の有無」の値が「有」の場合に入力する。

<定義域>

道路、鉄道、公園・駐車場、その他

径間_構造形式**定義**

橋梁上部工における各径間に関する属性情報のうち、構造形式に関する属性情報。

属性**鋼橋：鋼橋構造形式区分**

鋼橋の構造形式。

下記の構造形式区分より選択する。

<定義域>

I 桁（非合成）、I 桁（合成）、I 桁（鋼床版）、I 桁（不明）、

H型鋼桁（非合成）、H型鋼桁（合成）、H型鋼桁（不明）、
箱桁（非合成）、箱桁（合成）、箱桁（鋼床）、箱桁（不明）、トラス、アーチ、ランガー、
ローゼ、アーチその他、ラーメン、斜長橋（I桁）、斜長橋（箱桁）、斜長橋（トラス）、斜
長橋（その他）吊橋（I桁）、吊橋（箱桁）、吊橋（トラス）、吊橋（その他）、その他

PC 橋：PC 橋構造形式区分

PC 橋の構造形式。

下記の構造形式区分より選択する。

<定義域>

PC プレテン桁、PC ポステン桁、PC プレテン T 桁、PC ポステン T 桁、PC プレテン床版桁、PC
中空床版桁、PC 箱桁、PC アーチ桁、PC ランガー桁、PC ローゼ桁、PC アーチ（その他）桁、PC
ラーメン桁、その他

RC 橋：PC 橋構造形式区分

RC 橋の構造形式。

下記の構造形式区分より選択する。

<定義域>

RC 桁、RCT 桁、RC 床版桁、RC 中空床版桁、RC 箱桁、RC アーチ桁、RC ランガー桁、RC ロー
ゼ桁、RC アーチ（その他）桁、RC ラーメン桁、その他

木橋：その他構造形式区分

木橋の構造形式。

下記の構造形式区分より選択する。

<定義域>

I 桁、T 桁、箱桁、床版桁、中空床版桁、
トラス、アーチ、ランガー、ローゼ、アーチ（その他）ラーメン、
斜長橋（I 桁）、斜長橋（箱桁）、斜長橋（トラス）、斜長橋（その他）
吊橋（I 桁）、吊橋（箱桁）、吊橋（トラス）、吊橋（その他）、その他

石橋：その他構造形式区分

石橋の構造形式。

下記の構造形式区分より選択する。

<定義域>

I 桁、T 桁、箱桁、床版桁、中空床版桁、
トラス、アーチ、ランガー、ローゼ、アーチ（その他）ラーメン、
斜長橋（I 桁）、斜長橋（箱桁）、斜長橋（トラス）、斜長橋（その他）
吊橋（I 桁）、吊橋（箱桁）、吊橋（トラス）、吊橋（その他）、その他

鋼と RC（PC）橋との混合橋[2]：混合橋構造形式区分

鋼橋と RC 橋、もしくは鋼橋と PC 橋の混合橋の構造形式。

鋼橋、PC 橋、RC 橋の構造形式区分の中からそれぞれ 1 つ（計 2 つ）選択。

<定義域>

構造形式	構造形式区分
鋼橋	I 桁（非合成）、I 桁（合成）、I 桁（鋼床版）、I 桁（不明）、 H 型鋼桁（非合成）、H 型鋼桁（合成）、H 型鋼桁（不明）、 箱桁（非合成）、箱桁（合成）、箱桁（鋼床）、箱桁（不明）、 トラス、アーチ、ランガー、ローゼ、アーチその他、ラーメン、 斜長橋（I 桁）、斜長橋（箱桁）、斜長橋（トラス）、斜長橋（その他） 吊橋（I 桁）、吊橋（箱桁）、吊橋（トラス）、吊橋（その他）、 その他
PC 橋	PC プレテン桁、PC ポステン桁、PC プレテン T 桁、PC ポステン T 桁、PC プ レテン床版桁、PC 中空床版桁、PC 箱桁、PC アーチ桁、PC ランガー桁、PC ロ ーゼ桁、PC アーチ（その他）桁、PC ラーメン桁、その他
RC 橋	RC 桁、RCT 桁、RC 床版桁、RC 中空床版桁、RC 箱桁、RC アーチ桁、RC ラ ンガー桁、RC ローゼ桁、RC アーチ（その他）桁、RC ラーメン桁、その他

その他：その他構造形式区分

その他の橋の構造形式。

下記の構造形式区分より選択する。

<定義域>

I 桁, T 桁, 箱桁, 床版桁, 中空床版桁,

トラス, アーチ, ランガー, ローゼ, アーチ (その他) ラーメン,

斜長橋 (I 桁), 斜長橋 (箱桁), 斜長橋 (トラス), 斜長橋 (その他)

吊橋 (I 桁), 吊橋 (箱桁), 吊橋 (トラス), 吊橋 (その他), その他

径間_たわみ

定義

橋梁上部工における各径間に関する属性情報のうち、主桁のたわみに関する属性情報。

属性

死荷重たわみ：Integer

死荷重作用時の当該径間のたわみ。

単位は mm (ミリメートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

活荷重たわみ：Integer

活荷重作用時の当該径間のたわみ。

単位は mm (ミリメートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

径間_斜角

定義

橋梁上部工における各径間に関する属性情報のうち、斜角に関する属性情報。

属性

起点側：Integer

起点側の斜角。

<取得基準>

道路中心線と支承線との角度を取得する。

道路中心線の進行方向を 0 度とし、反時計回りで角度を取得する。

記述方式は、「hhmmss」(例：20 度 10 分 5 秒 → 201005) とする。

終点側：Integer

終点側の斜角。

<取得基準>

道路中心線と支承線との角度を取得する。

道路中心線の進行方向を 0 度とし、反時計回りで角度を取得する。

記述方式は、「hhmmss」(例：20 度 10 分 5 秒 → 201005) とする。

径間_主構造

定義

橋梁上部工の各径間における主構造部分に関する属性情報。

属性

主桁：主構造_主桁

主桁に関する諸元情報。

鋼材[0..1]：主構造_鋼材

鋼材に関する諸元情報。

コンクリート[0..1]：主構造_コンクリート

コンクリートに関する諸元情報。

PC 鋼材[0..1]：主構造_PC 鋼材

PC 鋼材に関する諸元情報。

主構造_主桁

定義

橋梁上部工における各径間の主構造部分に関する属性情報のうち、主桁に関する属性情報。

属性

形式：主桁形式区分

当該径間の主桁の形式。

単純桁, 連続桁, ゲルバー桁, 脚上ゲルバー, 連結桁, その他

本数[0..1]：Integer

当該径間の主桁本数。

桁高[0..1]：Real

当該径間の主桁の高さ。

単位を m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

間隔[0..1]：Real

当該径間の主桁間隔。

単位を m (メートル) とし, 小数点以下 3 桁とする。

主構造_鋼材

定義

橋梁上部工における各径間の主構造部分に関する属性情報のうち、鋼材に関する属性情報。

属性

鋼重：Real

当該径間での主構造の鋼重。

単位を t (トン) とし, 小数点以下 3 桁とする。

主要鋼材：主要鋼材区分

当該径間の主構造で主に使用している鋼材の材質。

<定義域>

SS400, SM400, SM490, SM490Y, SM620, SM670, SMA400W, SMA490W, SMA570W, その他

耐候性鋼材の表面処理：耐候性鋼材の表面処理区分

耐候性鋼材の表面処理方法。

当該径間で耐候性鋼材を試用している場合に入力する。

<定義域>

該当なし、裸仕様、ウェザーアウト、ウェザーコート、カプテンコート、RS コート、ラス
コール N、普通塗装、不明、その他。

主構造_コンクリート

定義

橋梁上部工における各径間の主構造部分に関する属性情報のうち、コンクリートに関する属性情報。

属性

上部工鉄筋重量：Real

当該径間の主構造で使用する鉄筋の重量。

単位を t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

上部工体積：Real

当該径間の主構造で使用するコンクリートの体積。

単位を m³ (立方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

主構造_PC 鋼材

定義

橋梁上部工における各径間の主構造部分に関する属性情報のうち、PC 鋼材に関する属性情報。

属性

材料：PC 鋼材材料区分

当該径間の主構造で主に使用している PC 鋼材の種類。

<定義域>

SWPR1AN, SWPR1AL, SWPD1N, SWPD1L, SWPR1BN, SWPR1BL, SWPR2N, SWPR2L,
SWPR7AN, SWPR7BN, SWPR19N, その他

緊張工法：緊張工法区分

当該径間の主構造で主に使用している PC 鋼材の緊張工法の種類。

<定義域>

フレシネー工法, SEEE 工法, その他

径間_横桁・縦桁

定義

橋梁上部工の各径間に関する属性情報のうち、横桁及び縦桁に関する属性情報。

属性

横桁：横桁・縦桁_諸元

上部工の横桁に関する情報。

材質、桁高、間隔を入力する。

縦桁：横桁・縦桁_諸元

上部工の縦桁に関する情報。
材質、桁高、間隔を入力する。

横桁・縦桁_諸元

定義

橋梁上部工の各径間に関する属性情報のうち、横桁及び縦桁の諸元情報。

属性

材質：横桁・縦桁材質区分

横桁で使用している材質。

<取得基準>

橋梁台帳システムで入力している材質区分を、発注者に確認して入力する。

桁高：Real

横桁の桁高。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 3 桁とする。

間隔：Real

横桁の間隔。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 3 桁とする。

径間_床版

定義

橋梁上部工の各径間に関する属性情報のうち、床版に関する属性情報。

属性

床版形式：床版形式区分

当該径間での床版の形式。

<定義域>

RC 床版, PC 床版, 鋼床版, その他

製作方法：製作方法区分

当該径間での床版の製作方法。

<定義域>

場所打ち床版, プレキャスト床版, その他

床版厚（車道） [0..1] : Real

車道部の床版の厚さ。

単位は cm（センチメートル）とし、小数点以下 1 桁とする。

<取得基準>

歩道のみ場合は入力しない。

床版厚（歩道） [0..1] : Real

歩道の床版の厚さ。

単位は cm（センチメートル）とし、小数点以下 1 桁とする。

<取得基準>

車道のみ場合は入力しない。

床版支間長 : Real

床版の支間長。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

床版コンクリート体積 : Real

床版に利用されているコンクリート体積。

単位は m³ (立方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

径間_伸縮装置

定義

橋梁上部工の各径間に関する属性情報のうち、伸縮装置に関する属性情報。

属性

起点側 : 伸縮装置_諸元

当該径間の終点側の伸縮装置に関する情報。

形式と製品名を入力する。

終点側 : 伸縮装置_諸元

当該径間の終点側の伸縮装置に関する情報。

形式と製品名を入力する。

伸縮装置_諸元

定義

橋梁上部工の各径間における伸縮装置に関する諸元情報。

属性

形式 : 伸縮装置形式区分

伸縮装置の形式。

<定義域>

鋼製フィンガー, 鋼製フィンガー以外, ゴム, 埋設型, その他

製品名 : CharacterString

伸縮装置の製品名。

径間_支承

定義

橋梁上部工の各径間に関する属性情報のうち、支承に関する属性情報。

属性

起点側 : 支承_諸元

当該径間の始点側の支承に関する情報。

終点側 : 支承_諸元

当該径間の終点側の支承に関する情報。

支承_諸元

定義

橋梁上部工の各径間における支承に関する諸元情報。

属性

支承種別：支承種別区分

支承の種別。

<定義域>

線支承, ピン支承, ピボット支承, ヒンジ支承, 支承板支承, ゴム支承, ローラー支承, ロッカー支承, ダンパー支承, 免震 (L3) 支承, 免震 (L2) 支承, 不明, その他

支承区分：支承区分

支承の機能に関する区分。

<定義域>

固定, 可動, 免震, 分散, 剛結, 不明, その他

支承高：Real

支承の高さ。

単位は cm (センチメートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

橋梁_下部工

定義

橋梁の下部工に関する属性情報。

属性

下部工名称：CharacterString

下部工の名称。

躯体：下部工_躯体

下部工の躯体部分に関する情報。

基礎：下部工_基礎

下部工の基礎部分に関する情報。

上部工反力[0..1]：下部工_上部工反力

下部工に作用する上部工の反力および下部工の躯体自重を入力する。

以下の値を入力する。

鉛直方向上部工反力 (常時), 鉛直方向上部工反力 (地震時), 水平方向上部工反力 (常時), 水平方向上部工反力 (地震時), 下部工躯体自重

主要材料[0..1]：下部工_主要材料

下部工の主要材料について, 橋梁部における数量を入力する。

耐震[0..1]：下部工_耐震

下部工の耐震に関する情報。

下部工_躯体

定義

橋梁の下部工の躯体に関する情報。

属性

躯体構造形式：下部工_躯体構造形式

下部工の躯体の構造形式。

全高 : Real

下部工の全体の高さ。

<取得基準>

フーチング下面からの高さを入力する。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

柱 (壁) [0..1] : 躯体_柱 (壁)

下部工の柱もしくは壁に関する情報。

幅, 厚さ, 断面形状を入力する。

コンクリート[0..1] : 躯体_コンクリート

下部工の躯体に使用しているコンクリートに関する情報。

設計基準強度, 体積を入力する。

鉄筋[0..1] : 躯体_鉄筋

下部工の躯体に使用している鉄筋に関する情報。

材質の種類, 重量を入力する。

鋼重[0..1] : Real

下部工の鋼重。鋼製橋脚の場合に入力する。

塗装[0..1] : 塗装履歴 (道路施設)

下部工の塗装に関する情報。

躯体_構造形式

定義

橋梁の下部工の躯体部分に関する情報のうち, 構造形式に関する属性情報。

属性

橋台 : 橋台構造形式区分

橋台の構造形式。

<定義域>

重力式橋台, 半重力式橋台, 逆T式橋台, 控え壁式橋台, ラーメン橋台, 箱式橋台, 中抜き橋台, 盛りこぼし橋台, その他橋台

橋脚 : 橋脚構造形式区分

橋脚の構造形式。

<定義域>

RC 壁式橋脚, RC 柱式橋脚, RC ラーメン橋脚, RCT 型橋脚, RC パイルベント橋脚, RC 多柱式橋脚, RC その他橋脚, 鋼製柱式橋脚, 鋼製ラーメン式橋脚, 鋼製パイルベント橋脚, 鋼製その他橋脚

躯体_柱 (壁)

定義

橋梁の下部工の躯体部分に関する情報のうち, 柱または壁に関する属性情報。

属性

幅 : Real

下部工の柱もしくは壁の幅。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

厚さ : Real

下部工の柱もしくは壁の厚さ。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

断面形状 : 柱 (壁) 断面形状区分

下部工の柱もしくは壁の断面形状。

<定義域>

矩形, 円形, 小判, その他

躯体_コンクリート

定義

橋梁の下部工の躯体部分に関する情報のうち, コンクリートに関する属性情報。

属性

設計基準強度 : コンクリート設計基準強度区分

下部工の躯体に使用しているコンクリートの設計基準強度。

<定義域>

18, 21, 24, 30, その他。

体積 : Real

下部工の躯体に使用しているコンクリートの体積。

単位は m³ (立方メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

躯体_鉄筋

定義

橋梁の下部工の躯体部分に関する情報のうち, 鉄筋に関する属性情報。

属性

材質 : 鉄筋材質区分

下部工の躯体に使用している鉄筋の主な材質。

重量 : Real

下部工の躯体に使用している鉄筋の重量。

単位は t (トン) とし, 小数点以下 2 桁とする。

下部工_基礎

定義

橋梁の下部工の基礎部分に関する属性情報。

属性

基礎構造形式 : 基礎形式区分

下部工基礎部分の形式。

<定義域>

直接基礎, 場所打ち杭, 深礎杭, 鋼管杭, RC 杭, PC 杭, PHC 杭, 木杭, その他杭基礎,
オープンケーソン, ニューマチックケーソン, 鋼管矢板井筒, PC ウェル, 地中連続壁,

その他、基礎形式不明

設計 K 値[0..1] : Real

設計時に設定した水平地盤反力係数 (K 値)。

設計水平震度[0..1] : 基礎_設計水平震度

橋軸方向及び橋軸の直角方向の設計水平震度の値。

液状化可能性[0..1] : 有無区分

基礎が液状化する可能性。

<取得基準>

有, 無

地盤[0..1] : 基礎_地盤

下部工基礎の地盤に関する情報。

地盤の種類, 土質の種類を入力する。

支持地盤[0..1] : 基礎_支持地盤

下部工基礎が到達している地盤の地層に関する情報。

支持地盤の地層の種類, 深さを入力する。

底版[0..1] : 基礎_底版

下部工基礎の底版に関する情報。

橋軸方向及び橋軸の直角方向の幅と高さを入力する。

杭[0..1] : 基礎_杭

下部工基礎に使用した杭に関する情報。

杭の本数, 最大長さ, 最小長さを入力する。

基礎_設計水平震度

定義

橋梁下部工の基礎部分に関する情報のうち、設計水平震度に関する属性情報。

属性

橋軸方向 : Real

橋軸方向の設計水平震度の値。

L2 地震に対応する設計水平震度 K_{hc} を入力する。

小数点以下 2 桁とする。

橋軸直角方向 : Real

橋軸と直角方向の設計水平震度の値。

L2 地震に対応する設計水平震度 K_{hc} を入力する。

小数点以下 2 桁とする。

基礎_地盤

定義

橋梁下部工の基礎部分に関する情報のうち、地盤に関する属性情報。

属性

土質区分 : 地盤土質区分

下部工基礎の土質の種類。

<定義域>

砂質土，粘性土，礫，岩盤，不明

種別：地盤種別区分

下部工基礎の地盤種別。

<定義域>

I 種，II 種，III 種，不明

基礎_支持地盤

定義

橋梁下部工の基礎部分に関する情報のうち，基礎が到達している地盤の地層に関する属性情報。

属性

種類：支持地盤種類区分

支持地盤の種類。

<取得基準>

発注者より提供された値を入力する。

深さ：Real

支持地盤の深さ。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

基礎_底版

定義

橋梁下部工の基礎部分に関する情報のうち，底版に関する属性情報。

属性

幅（橋軸方向）：Real

橋軸方向の底版の幅。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

幅（橋軸直角方向）：Real

橋軸の直角方向の底版の幅。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

厚さ：Real

底版の厚さ。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

基礎_杭

定義

橋梁下部工の基礎部分に関する情報のうち，杭に関する属性情報。

属性

杭径：Real

基礎に使用した杭の径長。

単位は m（メートル）とし，小数点以下 2 桁とする。

本数 : Integer

基礎に使用した杭の本数。

杭長 (最大) : Real

基礎に使用した杭の最大長さ。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

杭長 (最小) : Real

基礎に使用した杭の最小長さ。

単位は m (メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

下部工_上部工反力**定義**

下部工に作用する上部工反力および躯体自重に関する属性情報。

属性**鉛直 (常時) : Real**

常時における鉛直方向の上部工反力。

単位は kN (キロニュートン) とし、小数点以下 3 桁とする。

鉛直 (地震時) : Real

地震時における鉛直方向の上部工反力。

単位は kN (キロニュートン) とし、小数点以下 3 桁とする。

水平 (常時) : Real

常時における水平方向の上部工反力。

単位は kN (キロニュートン) とし、小数点以下 3 桁とする。

水平 (地震時) : Real

地震時における水平方向の上部工反力。

単位は kN (キロニュートン) とし、小数点以下 3 桁とする。

躯体自重 : Real

下部工躯体の自重。

単位は kN (キロニュートン) とし、小数点以下 3 桁とする。

下部工_主要材料**定義**

下部工を構成する主要材料に関する属性情報。

属性**鋼杭[0..1] : Real**

下部工で使用している鋼杭の重量。

単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

RC 杭[0..1] : Integer

下部工で使用している RC 杭の本数。

PC 杭[0..1] : Integer

下部工で使用している PC 杭の本数。

鋼材[0..1] : Real

下部工で使用している鋼材の重量。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

鉄筋[0..1] : Real

下部工で使用している鉄筋の重量。
単位は t (トン) とし、小数点以下 3 桁とする。

コンクリート[0..1] : Real

下部工で使用しているコンクリートの面積。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

石材[0..1] : Real

下部工で使用している石材の面積。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

木材[0..1] : Real

下部工で使用している木材の面積。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 3 桁とする。

下部工_耐震

定義

下部工の耐震に関する属性情報。

属性

落橋防止耐震性 : 耐震性区分

落橋防止に関する耐震性への対策状況。

<定義域>

未対策, 復旧仕様, H8 道示, H14 道示

下部工耐震性 : 耐震性区分

下部工の耐震性に対する対策状況。

<定義域>

未対策, 復旧仕様, H8 道示, H14 道示

落橋防止構造[0..n] : 耐震_落橋防止構造

起点側と終点側の落橋防止構造の設置方法。

耐震_落橋防止構造

定義

下部工の落橋防止構造に関する属性情報。

属性

起点側 : 落橋防止構造区分

起点側の落橋防止構造の設置方法。

<定義域>

無し

沓座拡幅 (SE の確保)

桁と下部構造連結

桁・下部構造に突起設置

2 連の桁を連結

沓座拡幅 (余裕のある SE 確保_1.5SE 等)

移動制限装置 (アンカーバー)

その他
不明

終点側[0..1]：落橋防止構造区分

起点側の落橋防止構造の設置方法。

<取得基準>

中間支点の場合は入力しない。

<定義域>

無し

沓座拡幅（SE の確保）

桁と下部構造連結

桁・下部構造に突起設置

2連の桁を連結

沓座拡幅（余裕のある SE 確保_1.5SE 等）

移動制限装置（アンカーバー）

その他

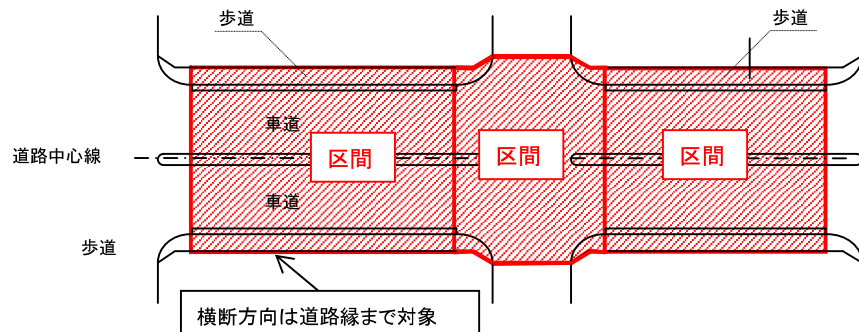
不明

道路区間パッケージ

区間

定義

道路に関する調査の最小単位を統括するクラス。



上位クラス： 道路竣工データ

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲 : GM_Surface

<取得基準>

道路の横断方向は、道路法が全面的に適用される土地の範囲とする。

延長方向については、以下の基準に基づいて構成される境界線より領域を取得する。

- 1) 道路, 橋梁, トンネル, 鉄道交差部
 - 2) 改良, 未改良の別
 - 3) 供用, 未供用の別
 - 4) 他の路線と交差, または重用する範囲
 - 5) 道路敷の平均幅員が 0.5m以上変化する個所
※平均幅員=道路敷面積÷延長
 - 6) 舗装の種類が変化する個所
- なお, 橋梁とトンネルとは別々に取得する。

区間番号[0..1]:Integer

区間の番号。

道路管理者が定める範囲において一意となる。

<取得基準>

道路管理者から提供される区間番号を取得する。

起点[0..1] : CharacterString

区間の起点が存在する住所。

<定義域>

市区町村・大字・字・地番を記載する。

終点[0..1] : CharacterString

区間の終点が存在する住所。

<定義域>

市区町村・大字・字・地番を記載する。

現道・旧道区分[0..1] : 現道・旧道区分

現道, 旧道, 新道の区分。

<定義域>

現道, 旧道, 新道

重用の有無[0..1] : 有無区分

重用区間の有無の区分。

<定義域>

有, 無

供用・未供用[0..1] : 供用・未供用区分

当該区間が供用か未供用かの区分。

<定義域>

供用, 未供用

自動車交通不能[0..1] : 有無区分

当該区間に自動車交通不能区間が含まれるか否かの区分。

<定義域>

有, 無

バス路線その他[0..1] : CharacterString

当該区間を含むバスやその他交通機関の路線名。

区間延長 : Real

当該区間の延長距離。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<定義域>

道路中心線上の延長を取得する。

道路敷幅員 : Real

道路敷の幅員。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

曲率半径[0..1] : Real

当該区間の曲率半径。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

縦断勾配[0..1] : Real

当該区間の縦断勾配。

単位は%（パーセント）とし、小数点以下 2 桁とする。

横断勾配[0..1] : Real

当該区間の横断勾配。

単位は%（パーセント）とし、小数点以下 2 桁とする。

上空障害[0..1] : CharacterString

当該区間の上空障害に関する内容。

<取得基準>

当該区間の上空に、障害物等がある場合に、その状況を記述する。

荷重制限[0..1] : Integer

道路の荷重制限値。

単位は t（トン）とする。

<取得基準>

通行車両の総重量などに対して、荷重の制限が設けられている場合にその値を取得する。

高さ制限[0..1] : Real

道路の高さ制限値。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

建築限界の高さ 4.5m 以下となる通行車両の高さの制限が設けられている場合にその値を取得する。

幅制限[0..1] : Real

道路の幅制限値。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

通行車両の幅の制限が設けられている場合にその値を取得する。

所有者別面積[0..1] : 区間_所有者別面積

当該区間の所有者別の面積。

<定義域>

国有地面積，地方公共団地面積，その他面積，河川占用面積を入力する。

交通量[0..1] : 区間_交通量

当該区間の交通量に関する情報。

計画交通量，交通量（自動車類），交通量（重車両），交通量（自転車類），交通量（歩行者），センサ番号，センサ調査年度，交通制限状況を入力する。

DID 地区[0..1] : DID 地区区分

当該地物が DID 地区内に位置するかどうかの区分。

<取得基準>
内, 外

関連役割

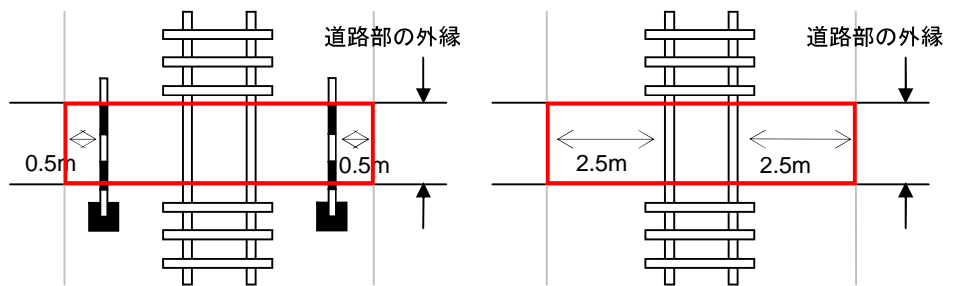
道路地物[1..n] : 道路地物

区間に存在する道路地物のインスタンスへの関連。

鉄道交差部

定義

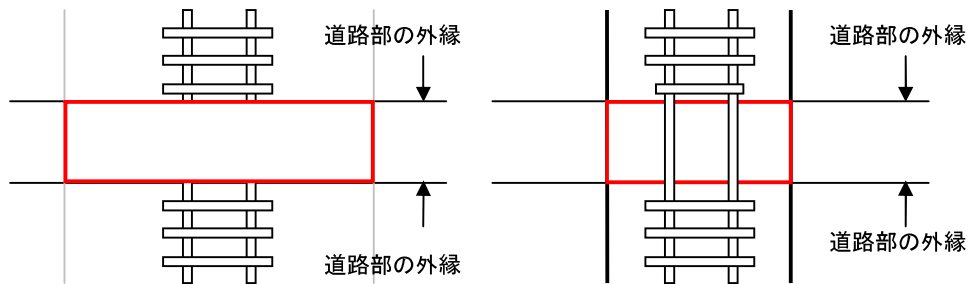
区間のうち、鉄道と交差する箇所。



踏切施設がある場合：
踏切施設の外側 0.5m を取得

踏切施設が無い場合：
最外側軌条の外側 2.5m を取得

交差形態：平面交差



橋梁などの当該構造物の外周線
を取得

鉄道橋など施設の正射影と道路部の
外縁とで囲まれる領域を取得

交差形態：跨線

交差形態：跨道

上位クラス： 区間

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

範囲：GM_Surface

<取得基準>

道路の横断方向は、道路法が全面的に適用される土地の範囲とする。

延長方向については、踏切施設がある場合は、その外側 0.5m を取得する。

踏切施設が無い場合は、最外側軌条の外側 0.5m を取得する。

その他以下の基準に基づいて構成される境界線より領域を取得する。

- 1) 道路, 橋梁, トンネル
- 2) 改良, 未改良の別
- 3) 供用, 未供用の別
- 4) 他の路線と交差, または重用する範囲
- 5) 道路敷の平均幅員が 0.5m以上変化する個所
※平均幅員=道路敷面積÷延長
- 6) 舗装の種類が変化する個所

なお、踏切道とは別に作成する。

区間番号[0..1]:Integer

区間の番号。

道路管理者が定める範囲において一意となる。

<取得基準>

道路管理者から提供される区間番号を取得する。

起点[0..1]：CharacterString

区間の起点が存在する住所。

<定義域>

市区町村・大字・字・地番を記載する。

終点[0..1]：CharacterString

区間の終点が存在する住所。

<定義域>

市区町村・大字・字・地番を記載する。

現道・旧道区分[0..1]：現道・旧道区分

現道, 旧道, 新道の区分。

<定義域>

現道, 旧道, 新道

重用の有無[0..1]：有無区分

重用区間の有無の区分。

<定義域>

有, 無

供用・未供用[0..1]：供用・未供用区分

当該区間が供用か未供用かの区分。

<定義域>

供用, 未供用

自動車交通不能[0..1] : 有無区分

当該区間に自動車交通不能区間が含まれるか否かの区分。

<定義域>

有, 無

バス路線その他[0..1] : CharacterString

当該区間を含む路線名。

区間延長 : Real

当該区間の延長距離。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

道路敷幅員 : Real

道路敷の幅員。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

曲率半径[0..1] : Real

当該区間の曲率半径。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

縦断勾配[0..1] : Real

当該区間の縦断勾配。

単位は% (パーセント) とし, 小数点以下 2 桁とする。

横断勾配[0..1] : Real

当該区間の横断勾配。

単位は% (パーセント) とし, 小数点以下 2 桁とする。

上空障害[0..1] : CharacterString

当該区間の上空障害に関する内容。

<取得基準>

当該区間の上空に, 障害物等がある場合に, その状況を記述する。

荷重制限[0..1] : Integer

道路の荷重制限値。

単位は t (トン) とする。

<定義域>

通行車両の総重量などに対して, 荷重の制限が設けられている場合にその値を取得する。

高さ制限[0..1] : Real

道路の高さ制限値。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

建築限界の高さ 4.5m 以下となる通行車両の高さの制限が設けられている場合にその値を取得する。

幅制限[0..1] : Real

道路の幅制限値。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

通行車両の幅の制限が設けられている場合にその値を取得する。

所有者別面積[0..1] : Real

当該区間の所有者別の面積。

<定義域>

国有地面積, 地方公共団体面積, その他面積, 河川占用面積を入力する。

交通量[0..1] : 区間_交通量

当該区間の交通量に関する情報。

計画交通量, 交通量 (自動車類), 交通量 (重車両), 交通量 (自転車類), 交通量 (歩行者), センサ番号, センサ調査年度, 交通制限状況を入力する。

DID 地区 : DID 地区区分

当該地物が DID 地区内に位置するのかどうかの区分。

<取得基準>

内, 外

交差部番号[0..1] : Integer

鉄道交差部の識別番号。

道路管理者が定める範囲において一意となる。

<取得基準>

道路管理者より提供される交差部番号を入力する。

交差部名 : 鉄道交差部_交差部名

鉄道交差部の名称。

鉄道事業者名 : 鉄道事業者区分

交差する鉄道の事業者名。

<定義域>

東日本旅客鉄道 (JR 東日本), 東京メトロ, 埼玉高速鉄道 (株), 東京都 (交通局)

鉄道路線名 : CharacterString

交差する鉄道路線の名称。

単複線区分 : 単複線区分

鉄道交差部と交差している鉄道線が単線か否かの区分。

<定義域>

単線, 単線以外

踏切道種別[0..1] : 踏切道種別区分

踏切道の種別。

<取得基準>

交差形態が平面交差の場合にのみ取得。

<定義域>

第一種踏切道, 第二種踏切道, 第三種踏切道, 第四種踏切道

延長 : Real

鉄道交差部内の道路中心線上における起点から終点までの延長。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

道路中心線上の延長を取得する。

交差形態が平面交差の場合は以下の通りとする。

- ・踏切遮断機等, 踏切施設がある場合 : 当該施設の外側 0.5m の線間
- ・最外側軌条の内側より 2.5m 外側の線間最外側軌条の内側より 2.5m 外側の線間

歩道等施設 : 歩道等施設区分

歩車道の区分状況に関する区分。

<定義域>

歩車道区分なし, 平面交差で歩車道区分あり, 横断歩道橋 (階段式), 横断歩道橋 (ス

ロープ式), 横断歩道橋(押上げ式), 地下横断歩道(階段式), 地下横断歩道(スロープ式), 地下横断歩道(押上げ式), 歩道等のみで平面交差

交差角度[0..1] : Integer

道路部の中心線と軌道との交差角度。

単位は m (メートル) とする。

<取得基準>

交差部から 30m 離れた道路中心位置と軌道とのなす角度を取得する。

有効高[0..1] : Real

立体交差での有効高 (最小桁高)。

単位は m (メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

<取得基準>

交差形態が平面交差の場合は取得しない。

交差形態 : 交差形態区分

鉄道交差部の交差形態。

<定義域>

平面, 跨道 (アンダー), 跨線 (オーバー)

対道路幅員差 : 鉄道交差部_対道路幅員差

鉄道交差部起点側にある取付道路 (道路部) に対する幅員差。

起点側と終点側の値を入力する。

道路勾配 : 鉄道交差部_道路勾配

鉄道交差部の道路勾配。

起点側と終点側の値を入力する。

見通し距離 : 鉄道交差部_見通し距離

鉄道交差部から見た起点左側の列車見通し距離。

起点・終点, さらに道路中心線から見て左右ごとに入力する。

道路交差点距離 : 鉄道交差部_道路交差点距離

鉄道交差部の起点側から 50 メートル以内にある道路交差点 (立体交差を除く) を対象とした, 踏切道の起点もしくは終点から道路交差点の中心点までの距離。

関連役割

道路地物[1..n] : 道路地物

鉄道交差部に存在する道路地物のインスタンスへの関連。

区間_所有者別面積

定義

当該区間における所有者別の面積に関する情報。

属性

国有地面積 : Real

当該区間の国有地部分の面積。

単位は m² (平方メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

地方公共団体面積 : Real

当該区間の地方公共団体部分の面積。

単位は m² (平方メートル) とし, 小数点以下 2 桁とする。

その他面積 : Real

当該区間のその他部分の面積。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

河川占有面積 : Real

当該区間の河川占有の面積。
単位は m² (平方メートル) とし、小数点以下 2 桁とする。

区間_交通量

定義

当該区間における道路交通センサスに関する情報。

属性

計画交通量 (車両) : Integer

当該橋梁における車両の計画交通量。

計画交通量 (歩行者) : Integer

当該橋梁における歩行者の計画交通量。

交通量 (自動車類) : Integer

当該箇所の自動車類の交通量。
参照している道路交通センサスの 24 時間調査より記載する。

交通量 (重車両) : Integer

当該箇所の重車両類の交通量。
参照している道路交通センサスの 24 時間調査より記載する。

交通量 (自転車類) : Integer

当該箇所の自転車類の交通量。
参照している道路交通センサスの 24 時間調査より記載する。

交通量 (歩行者) : Integer

当該箇所を通過した歩行者の数。参照している道路交通センサスの 24 時間調査より記載する。

センサス番号 : Integer

交通センサスの番号。

センサス調査年度 : TM_Instant

交通センサスの調査年度。
記述方式は、「YYYY」(例：2008 年 → 2008) とする。

交通制限状況 : 交通制限状況区分

交通制限の指定状況。
<定義域>
自動車交通不能, 交通制限あり, 交通制限なし。

鉄道交差部_交差部名

定義

鉄道交差部における名称に関する情報。

属性

交差部名 : CharacterString

当該交差部の名称。

交差部名 (カナ) [0..1] : CharacterString

当該交差部の読み仮名。

<定義域>

かなの種類は全角カタカナとする。

鉄道交差部_対道路幅員差

定義

鉄道交差部における道路との幅員差に関する情報。

属性

起点側 : Real

鉄道交差部起点側にある取付道路（道路部）に対する幅員差。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

終点側 : Real

踏切道終点側にある取付道路（道路部）に対する幅員差。

単位は m（メートル）とし、小数点以下 2 桁とする。

鉄道交差部_道路勾配

定義

鉄道交差部における道路勾配に関する情報。

属性

起点側 : Real

鉄道交差部起点側の道路勾配。

単位は%（パーセント）とし、小数点 2 桁とする。

<取得基準>

交差形態が平面交差の場合のみ取得する。

終点側 : Real

鉄道交差部終点側の道路勾配。

単位は%（パーセント）とし、小数点 2 桁とする。

<取得基準>

交差形態が平面交差の場合のみ取得する。

鉄道交差部_見通し距離

定義

鉄道交差部における見通し距離に関する情報。

属性

起点・右側 : Integer

鉄道交差部から見た起点左側の列車見通し距離

単位は m (メートル) とする

起点・左側 : Integer

鉄道交差点から見た起点右側の列車見通し距離

単位は m (メートル) とする

終点・右側 : Integer

鉄道交差点から見た終点左側の列車見通し距離

単位は m (メートル) とする

終点・左側 : Integer

鉄道交差点から見た終点左側の列車見通し距離

単位は m (メートル) とする

鉄道交差点_道路交差点距離

定義

鉄道交差点における道路交差点に関する情報。

属性

起点側 : Integer

鉄道交差点の起点側から 50 メートル以内にある道路交差点 (立体交差を除く) を対象とした, 踏切道の起点から道路交差点の中心点までの距離。

単位は m (メートル) とする。

終点側 : Integer

鉄道交差点の終点側から 50 メートル以内にある道路交差点 (立体交差を除く) を対象とした, 踏切道の終点から道路交差点の中心点までの距離。

単位は m (メートル) とする。

道路施設維持管理履歴パッケージ

道路施設維持管理履歴

定義

道路もしくは道路施設等の維持管理に関する履歴情報の抽象クラス。

上位クラス : 道路竣工地物

抽象/具象区分 : 抽象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新 (又は削除) までの期間。

<取得基準>

データ作成日は, 当該データを作成した日を取得する。

また, データ更新 (又は削除) 日は, 作成されている当該データの更新 (又は削除) を行った日を取得する。

補修改良履歴

定義

道路もしくは道路施設等の補修改良に関する履歴情報。
インスタンスは1発注単位で作成する。

上位クラス：道路施設維持管理履歴

抽象/具象区分：具象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

設計書種別：設計書種別区分

設計書の種別。

<定義域>

調査, 設計, 工事

設計書番号：CharacterString

設計書の番号。

業務・工事名：CharacterString

補修改良業務又は工事の名称。

補修改良箇所[0..n]：補修改良履歴_補修改良箇所

補修改良箇所の区分。

補修改良区分：補修改良区分

補修改良の区分。

補修改良年月：TM_Instant

補修改良を実施した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」（例：2008年10月1日 → 2008-10-01）とする。

内容：CharacterString

補修改良の実施内容。

<取得基準>

補修改良の実施項目、内容を具体的に記述する。

数量：CharacterString

補修改良業務又は工事の数量。

<取得基準>

補修改良を行った範囲面積、箇所数等を記述する。

適用示方書：適用示方書区分

当該業務もしくは工事における適用示方書。

<定義域>

適用示方書不明
大正 15 年道路構造に関する細則案
昭和 14 年鉄道路橋設計示方書案
昭和 31 年鋼道橋設計示方書
昭和 32 年溶接鋼道路橋示方書
昭和 39 年鋼道路橋設計示方書（改訂）
昭和 39 年鉄筋コンクリート道路橋設計示方書
昭和 43 年道路橋設計示方書
昭和 47 年道路橋示方書
昭和 53 年道路橋示方書
昭和 55 年道路橋示方書
平成 2 年道路橋示方書
平成 6 年道路橋示方書
平成 7 年道路橋示方書
平成 8 年道路橋示方書
平成 11 年道路橋示方書

発注金額：Integer

補修改良業務もしくは工事。
単位は円とする。

受注会社：CharacterString

補修改良業務又は工事を受注した会社の名称。

関連役割

補修改良履歴[0..n]：道路地物

補修改良を実施した道路地物インスタンスへの関連。（関連相手先 道路基本地物パッケージ::道路地物の下位クラス）

補修改良履歴_補修改良箇所

定義

補修改良履歴の補修改良箇所における情報。

属性

種別：補修改良箇所区分

補修改良を実施した箇所の分類。

<定義域>

桁構造、落橋防止、床版、防護柵、支承、排水、高欄、下部工、伸縮継手、その他

その他箇所[0..1]：CharacterString

種別が”その他”の場合の詳細な補修箇所の内容。

<取得基準>

種別が”その他”の場合にのみ、必要があれば入力する。

塗装履歴

定義

道路施設等の塗装に関する履歴情報の抽象クラス。

インスタンスは1発注単位で作成する。

上位クラス：道路施設維持管理履歴

抽象/具象区分：抽象

属性

データ有効期間：TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

塗装色：CharacterString

道路施設に塗装した色。

塗装年月：TM_Instant

塗装を実施した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」（例：2008年10月1日 → 2008-10-01）とする。

<取得基準>

塗装工事の工期終了日を取得する。

施工業者：CharacterString

施工を実施した施工業者。

工事費：Integer

塗装工事の工事費。

単位は円とする。

関連役割

横断歩道橋[0..n]：横断歩道橋

再塗装を実施した横断歩道橋インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::横断歩道橋）

橋梁[0..n]：橋梁

再塗装を実施した橋梁インスタンスへの関連。（関連相手先 道路支持地物パッケージ::橋梁パッケージ::橋梁）

塗装履歴（橋梁上部工）

定義

橋梁上部工の塗装に関する履歴情報。

上位クラス：塗装履歴

抽象/具象区分：具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

塗装色 : CharacterString

橋梁上部工に塗装した色。

塗装年月 : TM_Instant

塗装を実施した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」（例：2008年10月1日 → 2008-10-01）とする。

<取得基準>

塗装工事の工期終了日を取得する。

施工業者 : CharacterString

施工を実施した施工業者。

工事費 : Integer

塗装工事の工事費。

単位は円とする。

塗装面積内訳[1..n] : 橋梁上部工_塗装面積内訳

塗装工事の塗装面積の詳細情報。

関連役割

横断歩道橋[0..n] : 横断歩道橋

再塗装を実施した横断歩道橋インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::横断歩道橋）

橋梁[0..n] : 橋梁

再塗装を実施した橋梁インスタンスへの関連。（関連相手先 道路支持地物パッケージ::橋梁パッケージ::橋梁）

塗装履歴（道路施設）

定義

橋梁下部工の塗装に関する履歴情報。

上位クラス： 塗装履歴

抽象/具象区分： 具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。

また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

塗装色 : CharacterString

橋梁上部工に塗装した色。

塗装年月 : TM_Instant

塗装を実施した年月。

記述方式は、「YYYY-MM」（例：2008年10月1日 → 2008-10-01）とする。

<取得基準>

塗装工事の工期終了日を取得する。

施工業者 : CharacterString

施工を実施した施工業者。

工事費 : Integer

塗装工事の工事費。

単位は円とする。

塗装面積内訳 : 道路施設_塗装面積内訳

塗装工事の塗装面積の詳細情報。

塗装箇所、塗装面区分ごとに塗装の種別面積を入力する。

関連役割

横断歩道橋[0..n] : 横断歩道橋

再塗装を実施した横断歩道橋インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::横断歩道橋）

橋梁[0..n] : 橋梁

再塗装を実施した橋梁インスタンスへの関連。（関連相手先 道路支持地物パッケージ::橋梁パッケージ::橋梁）

照明施設[0..n] : 照明施設

再塗装を実施した照明施設インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::照明施設）

塗装履歴（柵・壁）

定義

柵・壁の塗装に関する履歴情報。

上位クラス：塗装履歴

抽象/具象区分：具象

属性

データ有効期間 : TM_Period

データ作成からデータ更新（又は削除）までの期間。

<取得基準>

データ作成日は、当該データを作成した日を取得する。
また、データ更新（又は削除）日は、作成されている当該データの更新（又は削除）を行った日を取得する。

塗装色 : CharacterString

柵・壁に塗装した色。

塗装年月 : TM_Instant

塗装を実施した年月。
記述方式は、「YYYY-MM」（例：2008年10月1日 → 2008-10-01）とする。

<取得基準>

塗装工事の工期終了日を取得する。

施工業者 : CharacterString

施工を実施した施工業者。

工事費 : Integer

塗装工事の工事費。
単位は円とする。

塗装面積内訳 : 柵・壁_塗装面積内訳

塗装工事の塗装面積の詳細情報。

関連役割

横断歩道橋[0..n] : 横断歩道橋

再塗装を実施した横断歩道橋インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::横断歩道橋）

橋梁[0..n] : 橋梁

塗装履歴（柵・壁）インスタンスの場合はこの関連の相手先を参照しない。（XML 文書では、この関連のタグを記述しない）

柵・壁 [0..n] : 柵・壁

再塗装を実施した柵・壁インスタンスへの関連。（関連相手先 道路関連地物パッケージ::柵・壁）

塗装履歴_塗装面積内訳

定義

道路施設の塗装面積の詳細に関する履歴情報。

属性

塗装面区分 : 塗装面区分

塗装面の分類。

<取得基準>

特に分類する必要がない場合は“全面”とする。

<定義域>

内面, 外面, 全面, その他

塗装面積 : Real

塗装箇所, 塗装面区分ごとの塗装面積。
単位はm²（平方メートル）とし、小数点以下3桁とする。

道路施設_塗装面積内訳

定義

道路施設の塗装面積の詳細に関する履歴情報。

【塗装面積内訳のサンプル（橋梁下部工の場合）】

1つの行が塗装面積内訳の1インスタンスに対応。

No	塗装箇所		塗装面 区分	塗装種別				塗装面積 (m ²)
	識別番号	塗装箇所		下塗り種別	中塗り種別	上塗り種別	その他	
1	(任意)	橋梁 下部工	外面	(任意)	(任意)	(任意)	(任意)	12.500

(任意)の箇所は特に指示等がなければ作成しなくても良い。

【塗装面積内訳のサンプル（照明施設の場合）】

1つの行が塗装面積内訳の1インスタンスに対応。

No	塗装箇所		塗装面 区分	塗装種別				塗装面積 (m ²)
	識別番号	塗装箇所		下塗り種別	中塗り種別	上塗り種別	その他	
1	(任意)	照明施設	全面	(任意)	(任意)	(任意)	(任意)	12.500

(任意)の箇所は特に指示等がなければ作成しなくても良い。

上位クラス： 塗装履歴_塗装面積内訳

属性

塗装面区分：塗装面区分

塗装面の分類。

<取得基準>

特に分類する必要がない場合は“全面”とする。

<定義域>

内面，外面，全面，その他

塗装面積：Real

塗装箇所，塗装面区分ごとの塗装面積。

単位はm²（平方メートル）とし，小数点以下3桁とする。

塗装箇所[0..1]：塗装面積内訳_塗装箇所

塗装箇所に関する情報。

複数の塗装箇所に対する塗装面積を記述する必要がある場合，塗装箇所の識別番号とその内容を入力する。

塗装種別[0..1]：塗装面積内訳_塗装種別

塗装や塗料の種類。

塗装の種類に関する情報がある場合は，下塗り塗装，中塗り塗装，上塗り塗装，その他塗装に関する内容を入力する。

柵・壁_塗装面積内訳

定義

柵・壁の塗装面積の詳細に関する履歴情報。

【塗装面積内訳のサンプル】

1つの行が塗装面積内訳の1インスタンスに対応。

No	塗装箇所		塗装面区分	塗装種別				塗装面積 (m ²)
	識別番号*	塗装箇所		下塗り種別	中塗り種別	上塗り種別	その他	
1	1	径間番号	全面	鉛系さび止めペイント	ふっ素樹脂塗料	ふっ素樹脂塗料	(任意)	12.500
	2							
	3							
	4							

*塗装箇所の識別番号は、径間番号を入力する。

1つのインスタンスに複数の径間番号を入力する。

(任意)の箇所は特に指示等がなければ作成しなくても良い。

上位クラス： 塗装履歴_塗装面積内訳

属性

塗装面区分：塗装面区分

塗装面の分類。

<取得基準>

特に分類する必要がない場合は”全面”とする。

<定義域>

内面，外面，全面，その他

塗装面積：Real

塗装箇所，塗装面区分，塗装種別ごとの塗装面積。

単位はm²（平方メートル）とし，小数点以下3桁とする。

塗装箇所：塗装面積内訳_塗装箇所

塗装箇所に関する情報。

<取得基準>

塗装対象の柵・壁が橋梁上に設置されている場合，識別番号には設置されている径間番号を入力する。

塗装種別：橋梁_塗装種別

塗装や塗料の種類。

該当する塗装の種類ごとに使用した塗料の情報を入力する。

<定義域>

下塗り塗装，中塗り塗装，上塗り塗装，その他

橋梁上部工_塗装面積内訳

定義

橋梁上部工と下部工の塗装面積の詳細に関する履歴情報。

【塗装面積内訳のサンプル】

1つの行が塗装面積内訳の1インスタンスに対応。

No	塗装箇所		塗装面区分	塗装種別				塗装面積 (m ²)
	識別番号*	塗装箇所		下塗り種別	中塗り種別	上塗り種別	その他	
1	1	径間番号	外面	鉛系さび止めペイント	ふっ素樹脂塗料	ふっ素樹脂塗料	(任意)	12.500
2	1	径間番号	内面	フッ素樹脂塗料	—	—	(任意)	5.500
3	2	径間番号	外面	鉛系さび止めペイント	ふっ素樹脂塗料	ふっ素樹脂塗料	(任意)	13.500
4	2	径間番号	内面	フッ素樹脂塗料	—	—	(任意)	6.500
...

*塗装箇所の識別番号は、径間番号を入力する。
(任意)の箇所は特に指示等がなければ作成しなくても良い。

上位クラス： 塗装履歴_塗装面積内訳

属性

塗装箇所：塗装面積内訳_塗装箇所

<取得基準>

橋梁上部工の場合は、塗装を実施した径間番号を入力する。

塗装面区分：塗装面区分

塗装面の分類。

<定義域>

内面，外面，全面，その他

塗装種別：塗装面積内訳_塗装種別

塗装や塗料の種類。

<定義域>

下塗り塗装，中塗り塗装，上塗り塗装

塗装面積：Real

塗装箇所，塗装面区分ごとの塗装面積。

<取得基準>

橋梁上部工インスタンスの場合は、径間ごと，外面・内面ごとの塗装面積を入力する。

塗装面積内訳_塗装種別

定義

塗装の種別に関する情報。

属性

下塗り塗装[0..1]：下塗り塗装種別区分

塗装工事で使用した下塗り塗装の種別。

<定義域>

鉛系さび止めペイント
無機ジンクリッチペイント
有機ジンクリッチペイント
エポキシ樹脂塗料下塗り
変形エポキシ樹脂塗料下塗り

タールエポキシ樹脂下塗
無溶剤系タールエポキシ樹脂塗装
変性エポキシ樹脂塗装内面用
無溶剤系変性エポキシ樹脂塗装
フェノール樹脂 MO 塗装
エポキシ樹脂 MO 塗装
長ばく系エッチングプライマー
無機ジンクリッチプライマー
エポキシ樹脂プライマー
対候性
その他

中塗り塗装[0..1] : 上・中塗り塗装種別区分

塗装工事で使用した中塗り塗装の種別。

<定義域>

長油性フタル酸樹脂塗料
シリコンアルキド樹脂塗料
塩化ゴム系塗料
ポリウレタン樹脂塗料
フッ素樹脂塗料
シリコン変形アクリル樹脂塗料
その他

上塗り塗装[0..1] : 上塗り塗装種別区分

塗装工事で使用した上塗り塗装の種別。

<定義域>

長油性フタル酸樹脂塗料
シリコンアルキド樹脂塗料
塩化ゴム系塗料
ポリウレタン樹脂塗料
フッ素樹脂塗料
シリコン変形アクリル樹脂塗料
その他

その他塗装[0..1] : CharacterString

その他塗装の種別。

<取得基準>

上塗り・中塗り・下塗りの各塗装種別で”その他”を選択した場合に、具体的な塗料の種類を入力する。

塗装面積内訳_塗装箇所

定義

塗装箇所に関する情報。

属性

識別番号 : Integer

塗装箇所を識別するための番号。

<取得基準>

塗装履歴（橋梁上部工）、塗装履歴（柵・壁）では径間番号を入力する。その他の道路施設については、任意の番号を入力する。

塗装箇所[0..1] : CharacterString

塗装箇所識別番号に対応する塗装箇所の内容を記述する。

<取得基準>

塗装履歴（橋梁上部工）、塗装履歴（柵・壁）の場合は文字列“径間番号”を入力する。その他の道路施設については、任意の内容とする。

5. 参照系

5.1. 空間参照系

参照系識別子 : JGD2000, TP / 9(X, Y), H

5.2. 時間参照系

参照系識別子 : GC / JST

6. データ品質

6.1. 品質評価方法の共通事項

品質評価の検査方法には、全データを対象とする全数検査と、規定の手順に従って抽出した一部のデータを対象とする抜取検査がある。

抜取検査の対象となるサンプルの抽出方法は以下の内容に従うものとする。

<抜取検査の共通事項>

- 評価対象の範囲**：データ作成対象の 2% ただし、最低 250m の路線を含む道路区域の範囲を含むものとする。
- 評価対象の抽出方法**：
データの元資料となる各竣工図の範囲に含まれる地物を対象に無作為抽出法にて抽出する。

<サンプルの抽出方法>

- ①適用範囲に含まれる地物インスタンスに一連の番号を付与する
- ②乱数表もしくはコンピュータを用いて乱数を発生させる
- ③乱数と対応する番号をもつ地物インスタンスを抽出する

6.2. 品質要求・評価手法

データ集合で必要とされる品質とその評価手法は下記内容に準拠する。

品質要素	品質副要素	適用範囲	定義	データ品質評価尺度	適合品質水準	検査の種類	データ品質評価手法・手順
完全性	過剰	データ集合全体	<p>○データ集合の過剰データがない</p> <p>データ集合と参照データ（原典資料等）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照データと対応関係がとれない地物インスタンスがデータ集合内に存在する場合。 データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余剰なデータの個数をすべてエラーとして数える。 <p>誤率 (%) = (過剰なデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>	<p>適合率：0%</p>	<p>採取・目視検査</p>	<p>①採取検査手法に従い、検査単位を抽出する。</p> <p>②参照データとデータ集合を目標と比較し、データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</p> <p>③計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき適合性を判定する。</p> <p>誤率=0%であれば“合格” 誤率>0%であれば“不合格”</p>	
	漏れ	データ集合全体	<p>○データ集合からのデータ欠落がない</p> <p>データ集合と参照データ（原典資料等）に含まれる個々のデータ（地物インスタンス）同士の一対一の比較を行い、データ（地物インスタンス）の漏れの割合（誤率）を計算する。次の場合、エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。 <p>誤率 (%) = (漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>	<p>適合率：0%</p>	<p>採取・目視検査</p>	<p>①採取検査手法に従い、検査単位を抽出する。</p> <p>②参照データとデータ集合を目標と比較し、データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</p> <p>③計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき適合性を判定する。</p> <p>誤率=0%であれば“合格” 誤率>0%であれば“不合格”</p>	
論理一貫性	概念一貫性	データ集合全体	<p>○応用スキーマで決められた地物を逸脱した地物がない</p> <p>○地物同士の関係が応用スキーマと矛盾しない</p>	<p>応用スキーマが規定する地物型と合致しないエラー数：0</p>	<p>全数・自動検査</p>	<p>応用スキーマを表現するXMLスキーマとデータ集合に矛盾がないか、検査プログラム（XMLパーサなど）によって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>	
	定義域一貫性	データ集合全体	<p>○地物属性の値が決められた定義域の中にあるか。</p> <p>空間属性及び時間属性はそれぞれの範囲にあるか。</p>	<p>地物属性の定義域一貫性のエラー数：0</p>	<p>全数・自動検査</p>	<p>地物属性インスタンスの値が、応用スキーマに規定される主題属性の定義域並びに地物の空間及び時間属性の定義域の中にあるか、検査プログラム（XMLパーサなど）によって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>	
	書式一貫性	データ集合全体	<p>○データ集合のファイル形式がXMLの仕様と適合しているか。</p>	<p>XML文書の構文のエラー数：0</p>	<p>全数・自動検査</p>	<p>データ集合のファイルの書式が整形形式であるか、検査プログラム（XMLパーサなど）によって評価する。</p> <p>一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>	
	位相一貫性	データ集合全体	<p>○地物とその境界の関係が一貫性を持つか、(隣接関係の保持)。</p>	<p>エラー数：0</p>	<p>全数・自動検査</p>	<p>論理検査プログラムによって、データ集合の地物とその境界の関係の一貫性が保たれているかを評価し、エラー数を計算する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>	

品質要素	適用範囲	定義	適合品質水準	検査の種類	データ品質評価手法
品質要素 位置正確度	適用範囲 車道、車道交差部、路肩、交通島、分譲帯、歩道部、法敷、その他道路敷	定義 ○空間属性を構成する各点の絶対位置の平均二乗誤差が、閾値を超えないか。 データ集合のうち、道路線を構成する頂点の座標と、より正確度の高い参照データとを比較し、平均二乗誤差 (RMSE) を計算する。 ■水平位置の誤差の平均二乗誤差 (RMSE) $RMSE = \sqrt{\frac{1}{n} \sum (x_i - X)^2 + (y_i - Y)^2}$ x: データ集合内の検査対象のデータの位置の X 座標[メートル] y: データ集合内の検査対象のデータの位置の Y 座標[メートル] X: より正確度の高いデータの位置の X 座標[メートル] Y: より正確度の高いデータの位置の Y 座標[メートル] n: サンプル数	適合品質水準 水平方向平均二乗誤差: 12cm 以内 (抜取試験に対して) ※鉛直方向の値 (標高) については、品質を規定しない。	検査の種類 抜取検査	データ品質評価手法 手順 ①抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ②参照データとデータ集合の座標値を比較し、データ品質評価尺度に基づき、平均二乗誤差 (RMSE) を計算する。 ③計算した平均二乗誤差 (RMSE) と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 RMSE ≤ 12cm であれば “合格” RMSE > 12cm であれば “不合格”
品質要素 時間正確度	適用範囲 橋梁	定義 ○記録された時間が決められた誤差の範囲にあるか。 (例えば年月日で記録することが求められている地物に対して年度のみの記録は正確度を満足しないことになる。) 全ての地物インスタンスを対象に、データ有効期間の終了日が “now” であるか確認する。 ○イベントの時間順序に誤りがないか。 橋梁インスタンスに含まれる時間属性の値が以下の式に適合しているか確認する。 ・供用年月 > 完成年月 > 着工年月	適合品質水準 エラー数: 0	検査の種類 全数検査	データ品質評価手法 手順 ①全ての地物のインスタンスのデータ有効期間の終了日の値をテキストエディタやその他のアプリケーションなどで抽出する ②目視もしくはプログラムなどを用いて値が “now” であるかチェックする。 ①全ての橋梁インスタンスの当該値を表示または出力する。 ②目視にて各値を比較する。
品質要素 時間妥当性	適用範囲 データ集合全体	定義 ○地物の分類 (種別) に誤りがないか。 対象クラスのインスタンスを参照データ (竣工図やその他の原典資料等) に含まれるデータと比較して、正しいことを確認する。 確認の結果、正しくないインスタンスをエラーとする ○主題属性のうち、文字 (列) や符号 (コード) のように大小関係を持たない属性 (非定量的属性) に誤りがないか。 対象クラスのインスタンスを参照データ (原典資料等) に含まれるデータと比較して、正しいことを確認する。 確認の結果、正しくないインスタンスをエラーとする ○主題属性のうち、大小関係をもつ属性 (定量的属性) に誤りがないか。 対象クラスのインスタンスを参照データ (原典資料等) に含まれるデータと比較して、正しいことを確認する。 確認の結果、正しくないインスタンスをエラーとする	適合品質水準 エラー数: 0 (抜取試験に対して)	検査の種類 抜取検査	データ品質評価手法 手順 ①抜取検査の場合は、抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ②参照データとデータ集合の座標値を比較し、データ品質評価尺度に基づき、エラー数を計算する。 ③エラー数と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 エラー数 = 0 であれば “合格” エラー数 > 0 であれば “不合格” ①抜取検査の場合は、抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ②参照データとデータ集合の座標値を比較し、データ品質評価尺度に基づき、エラー数を計算する。 ③エラー数と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 エラー数 = 0 であれば “合格” エラー数 > 0 であれば “不合格” ①抜取検査の場合は、抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ②参照データとデータ集合の座標値を比較し、データ品質評価尺度に基づき、エラー数を計算する。 ③エラー数と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 エラー数 = 0 であれば “合格” エラー数 > 0 であれば “不合格”
品質要素 主題正確度	適用範囲 データ集合全体	定義 ○主題属性のうち、大小関係をもつ属性 (定量的属性) に誤りがないか。 対象クラスのインスタンスを参照データ (原典資料等) に含まれるデータと比較して、正しいことを確認する。 確認の結果、正しくないインスタンスをエラーとする	適合品質水準 エラー数: 0 (抜取試験に対して)	検査の種類 抜取検査	データ品質評価手法 手順 ①抜取検査の場合は、抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 ②参照データとデータ集合の座標値を比較し、データ品質評価尺度に基づき、エラー数を計算する。 ③エラー数と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合格を判定する。 エラー数 = 0 であれば “合格” エラー数 > 0 であれば “不合格”

7. データ製品配布

7.1. 書式名称

JPGIS Ver. 2.1 附属書 12 (規定) 地理マーク付け言語 (GML)

7.2. 符号化仕様

JPGIS Ver. 2.1 附属書 12 (規定) 地理マーク付け言語 (GML) に基づく符号化規則を使用する。

7.3. 文字集合

UTF-8

7.4. 言語

日本語

7.5. 配布単位

データ集合単位

8. メタデータ

8.1. メタデータの作成指示

JMP2.0

8.2. メタデータの形式

JMP2.0

8.3 記載項目

JMP2.0 の必須項目を必ず記載する。

8.3 作成単位

メタデータは、作業単位に作成する。